



薬用植物(表紙写真)の紹介

カンゾウ

本学中庭の一角にカンゾウ（マメ科）が植栽されている。太田長世名誉教授が在職中に移植されたと聞く。春に真っ直に立ち、小葉は大形長楕円形である。それが6月頃にはつる状に這い、小葉は細長くなる。地下に走出茎（ストロン）を伸ばし、どんどん広がっている。今のところ、花がつかないので種の同定は難しいが、*Glycyrrhiza glabra* か、その変種と思われる。各地の薬草園に植栽されている種類とは少々様子が違っており、興味が持たれる。*G. glabra* は数種の変種が知られており、スペインカンゾウ、ロシアカンゾウ、ベルシャカンゾウなどが有名である。

この同属植物は中国、旧ソ連、ヨーロッパ、アフリカ、北米西部に10種ほどが分布している。そのためか、この植物の仲間は洋の東西を問わず、古くから重要な薬用植物として利用されてきた。そして科学的研究が進むにつれて、その利用法は、理にかなっていることがわかり、感心させられる。

例えば、昔から砂漠を旅する民族はラクダに乗り、カンゾウの根を欠かさなかった。それをしゃぶっているとどののどが渇きがおさまったのであろう。ラクダは血中アルドステロン値が高く、水の排泄がコントロールされていると聞く。カンゾウの主成分のグリチルリチン酸は体内のアルドステロンの代謝を抑え、水やナトリウムイオンの再吸収を助ける。従って、カンゾウの根をしゃぶっていると、ラクダに似て血中アルドステロン値が高くなり水分の排泄が減り、のどの渇きはおさまるのである。

中東では今でも甘草ジュース売りは街角の風物詩の一つであると聞くが、上記と同様の理由で、暑い地方でのどの渇きを癒す飲み物として、このジュースは優れていると思われる。

胃障害に悩まされていたナポレオンは甘草を愛用したと伝えられている。主成分のグリチルリチン酸およびその誘導体は胃潰瘍の重要な治療薬として使われており、ナポレオンの愛用は理にかなっていたことなる。

甘草の粉末は虫歯の激痛を和らげるが、もう一つの主成分のイソリクエリチンに強い鎮痙作用があり、甘草が痙れんを伴う激痛を抑える理由にされている。漢方薬の芍薬甘草湯（芍薬と甘草の2味を配合）、甘麦大棗湯（甘草、大棗、小麦）、甘草大黃湯（甘草と大黃）などは痙れんを伴う痛みや便秘を癒すのに使われ

るが、これらは経験の積み重ねで生まれた漢方薬が、含有成分から見ても理にかなっている例である。

慢性肝炎に小柴胡湯が用いられ、ある程度の治療実績を上げてきた。その中の柴胡が主役であるが、甘草も重要である。主成分のグリチルリチン酸は副腎皮質ホルモンの働きを助けると共に、それだけでも慢性肝炎の症状を緩解する。

補中益気湯や人參湯がエイズに効くと話題になったがそれも主役は甘草で、グリチルリチン酸のウイルス増殖抑制やプロテinkinase P との低濃度での結合が作用機序に関係すると報告されている。

カンゾウ属植物の数種の根およびストロンが生薬甘草として市場に出されるが、上記の例の如く漢方薬によく配合される。漢方薬の原典とされる傷寒論の113処方のうち、70処方に、金匱要約262処方中92処方に甘草が配合される。現在、厚生省が製造販売を認めている210種の漢方薬のうち、143種に配合されている。一方、一般薬として分類される多くの配合薬にも甘草は欠かせない。漢方胃腸薬、宇津救命丸、救心、実母散、ルビーナ、じんたん、わかまつなど馴染み深いものにも配合されている。

現在、年間約10,000トンが輸入されるが、薬用としては2,800トンほどが利用され、4分の3ほどの残りはグリチルリチン酸の製造原料や食品添加物として利用される。アイスクリーム、プリン、カステラ、シュークリーム、チョコレート、パン、ココアなど50種を超す食品に甘味や、こくをだす目的で利用される。

甘草エキスあるいはグリチルリチン酸が多くの人達の愛用する食品や一般薬に含まれるために、医療用のグリチルリチン酸含有薬の副作用が心配される。主に偽アルドステロン症であるが、最近では急性肝炎なども注目されている。

以上のように、カンゾウは重要な薬用植物であるために、バイオ技術を使った多量生産のための研究も盛んに行われている。今のところ、カルスから植物への再生や、カルス培養でのグリチルリチン酸生合成は成功していない。それが植物の地下部に限って含まれるので、グリチルリチン酸のバイオ細胞での生合成には難しい問題が予想される。また、グリチルリチン酸の炎症抑制の性質と偽アルドステロン症誘起の性質を分離して、好ましい性質だけの薬を作る努力が払われている。

輸入甘草の品質が低下している今日、本学中庭のカンゾウを使って、優良品種を育て上げたいと研究を始めている。

(写真) スペインカンゾウ *Glycyrrhiza glabra* oar. *typica*

(写真・文 教授 草野次郎)

目 次

薬用植物の紹介 カンゾウ	草野源次郎
推薦入学制度の発足	学長 久保田 晴 寿… 2
就職状況中間報告	就職部長 栗原 拓 史… 3
研究室だより 第二放射薬品学教室	木村 捷二郎… 5
機器紹介 高速X線結晶回折装置システム	石田 寿 昌… 7
平成3年度学校法人決算について	河野 光 次… 8
海外出張報告 ヨーロッパ生命倫理セミナーに参加して	松 島 哲 久… 9
第27回大薬祭を振り返って	稲 森 善 彦… 12
第10回公開教育講座について	掛 見 正 郎… 14
教務課だより	16
第78回薬剤師国家試験	16
平成5年度推薦・一般入学試験	17
院博士前期(修士)課程入学試験	18
院薬学研究科の主な研究分野	19
学生課だより	20
奨学生状況	21
全国・関西薬学連盟大会結果	22
保健室だより	23
図書館だより	24
親和会だより	24
消防訓練実施さる!	25
文部省科学研究費補助金採択状況	11
人事異動	26
各部・委員会・委員一覧	26
後期行事予定	27
'92 親睦野球大会	28



大平敬次郎・作「長野風景」
(図書館・第二閲覧室)



推薦入学制度の発足

学 長 久 保 田 晴 寿

大学入学者の選抜はかつては、すべての大学が教科目数の多少はあったが、それぞれ独自の学力試験によっていた。しかし、高等学校の教育範囲を超えた難問、奇問が世の批判を受けて、国公立大学では、昭和54年度から基礎的な学力を問う共通1次学力試験を実施することとなった。大学によっては、2次試験の試験教科目数を減らすことはできたが、受験生に対し負担を増し、大学の序列化や偏差値による輪切り現象が問われ、社会問題となった。そこで、平成2年度からは大学入試センター試験が実施され、多くの国公立大学では、これを利用して分離、分割方式を採用するようになり、受験機会の複数化が普及した。最近では、私立大学でも、大学入試センター試験の結果を活用して、独自の選抜を行う大学も増えてきている。さらに、殆どすべての私立大学や多くの国公立大学が独自の推薦入学制度を導入し、大学入学者の選抜制度は急速に多様化しているのが現状である。

本学は永年の間、英語、数学、化学の三科目の学科試験を課して、公正な選抜を行ってきた。しかし、受験競争が激しくなるに従って、偏差値に関する入試情報を唯一の拠り所とする大学選択を行うものが増え、薬剤師養成という明確な目的を持った本学にも、はっきりした目的意識を持たない学生や無気力な学生が目立つようになってきた。

薬学部は薬剤師育成の教育的責任を担った唯一の専門学部であり、また、医薬品の創製、製造、供給のみならず、保健衛生等、人間の生命に深い関わりを持つ広い分野で働く薬学技術者を養成する学部である。従って、本学は単に専門知識のみを授与する機関ではなく、人間教育の場であり、広い視野と豊かな教養を高校で十分に身につけた受験生こそ本学にとって望まし

いことはいうまでもない。

わが国の大学は戦後、急速に増大し、今日では500校を越えて、大衆化し、多様化してきた。さらに、18歳人口は本年の205万人をピークに急速に減少に転じ、2000年には151万人になると予測されている。まさに大学にとって、「冬の時代」の到来である。また、昭和31年に、大学を一定の水準以上に保つために設けられた大学設置基準は、大学の画一化を避け、活性化を促すために、昨年7月に大綱化され、各々の大学が、その教育理念や目的に応じて自主的に運用できるように改められた。これを受けて、各大学はいま教育改革に懸命の努力を続けている。

本学に於いても、引き続き、教職員全員の協力のもとに、抜本的なカリキュラムの改正など教育改革に取り組んでいるが、同時に意欲のある優れた学生を獲得するために、入試改革が必要であるという結論に達し、その一環として、推薦入学制度の導入を決定した次第である。

このたびの推薦入学試験は公募制で、高校の現役生徒で評定平均値の平均が3.7以上で、高等学校長からの推薦書があれば、誰でも応募できることとした。調査書を重視し、英語及び小論文の学力テストを課することによって、バランスのとれた学力と、優れた資質を持った、本学で薬学を学ぶ目的意識の明確な学生を獲得することを目指した。

従来の3科目の学科試験を課す一般入試の選抜による学生集団は考え方や生き方が似た均質なものとなり易いが、これとは異なった基準で選ばれた集団が加わり、お互いに切磋琢磨することにより、本学の個性化、活性化に寄与することを期待している。



就職状況中間報告

就職部長 栗原拓史
教授

4月から就職部長を担当することになり、初めて4年次生に対する就職ガイダンスを行ったのが4月18日であった。バブル経済崩壊のあおりを受け就職戦線は厳しいことが予想された中でのスタートである。まず学生の動向を把握する目的で、4月20日～23日の4日間をかけて進路希望の調査（面談）を行った。（表Ⅰ参照）。しかし、その時点で既にながりの学生が独自で企業セミナー参加等の就職活動を開始していることも知った。

希望進路としては薬業関連企業、病院関係（研修生も含む）、大学院進学等の大まかなパーセンテージは例年のそれらと大きく変わるものではなかった。いよいよこの時期に至り企業、大学院進学ならびに公務員志望の多くはほぼ一段落の状況にあるため、ここでそ

の中間報告をまとめ今後の参考に供したい。

4回生は男子学生104名に対し女子学生が198名（66%）と多く、特に女子の企業への就職には厳しいものが感じられた。現在我々が把握できている内定状況は表Ⅱの通りであり、進学組も含めて男子は約80%、女子は約65%となっている。大学院進学者は本学22名（内女子1名）と他大学では男子6名（京都大学、大阪大学、広島大学、名古屋市立大学）女子2名（大阪大学）の総数30名で、まだ昨年度の最終決定数に比べ10名ほど少ない。男子で特に目のつく点は医薬情報担当者（MR）が39名の希望者に対し34名の内定者に留まったことであろうか。例年通り製薬関連企業、医療機器販売企業を中心に多くの求人（表Ⅲ参照）があったが、実際はわずか21社の大手企業に集中しているの

表Ⅰ 平成4年度卒業予定者進路希望調査状況

（平成4年4月23日現在）

		男子		%		女子		%		計		%	
薬業 関連 会社	営 業	39	37	16	8	55	18						
	研 究・品質管理	5	4.8	65	33	70	23						
	学 術・開発	2	1.9	46	23	48	16						
	そ の 他	3	2.9	3	1.5	6	2						
薬 局 ・ 卸		1	1	1	0.5	2	0.7						
病 院 ・ 診 療 所 研 修 生		8	7.5	41	21	49	16						
		3	2.9	9	4.5	12	4						
大 学 職 員 公 務 員 大 学 院 進 学 自 就 職 家 業 し な い		0	0	1	0.5	1	0.3						
		5	5	12	6	17	6						
		37	36	2	1	39	13						
		0	0	1	0.5	1	0.3						
		1	1	1	0.5	2	0.7						
計		104	100	198	100	302	100						

表Ⅱ 平成4年度就職・進学内定状況

(平成4年10月15日現在)

		男子	%	女子	%	計	%
薬業 関連 会社	営業	34	33	24	12	58	19
	研究・品質管理 学術・開発	13	12	66	33	79	26
	その他	1	1	2	1	3	1
薬局・卸		2	2	6	3	8	3
病院・診療所 研修生		1	1	26	13	27	9
		0	0	1	0.5	1	0.3
大学職員		0	0	0	0	0	0
公務員		2	2	4	2	6	2
大学院進学		27	26	3	2	30	10
自営業		0	0	2	1	2	0.7
就職しな		3	3	1	0.5	4	1
就職未定者		21	20	63	32	84	28
計		104	100	198	100	302	100

が現状である。一人で3～4社を不採用となった学生もいたほどで、企業の厳しい選択（当然であるが）が見られた。しかし、学生諸君には第一希望の選択をもっと慎重に、且つ大手企業一辺倒ではなくもっと広い視野で会社を見る目を持ってもらいたい等が私の感想であり希望でもある。さらに病院勤務内定者が今のところ1名というのも男子薬剤師を求める多くの病院があることからして残念に思う次第である。一方、

表Ⅲ 平成4年度求人状況

(平成4年10月15日現在)

	求人件数	求人数
製薬会社 化学工業	149	932
食品	9	53
化粧品	8	46
薬局	95	580
病院	198	482
公務員	55	178
研修生	13	92
その他	62	301
合計	589	2,664

究開発部門に14名もの男子内定者を得たことは喜ばしい限りである。

女子ではMRが当初の希望者16名から24名もの内定者の出たことが目につく。今後男子学生のMR希望者増加の期待出来ない(?)現状から、企業の女子MRの採用枠はますます増えていくものと考えられる。果たして本当に喜ばしいことなのかはこれからしばらく様子を見る必要があるとの意見も耳にする。最も希望者の多かった女子の研究開発、品管部門(111名)には目下受験中も含めて総数50社余りに約70名が内定を得ている。今後この数字が大幅に伸びることはないまでも、まだ若干名の内定者が出ることを期待している。また、病院薬局には未だ27名の内定者のみであるが、この数は今後順調に上昇して行くものと予想される。

さて、公務員志望者にとっては今年も厳しい年であり、現在の内定者は男子2名、女子4名である。

以上大まかな中間報告を記したが男子の大学院不合格者はさておき、企業のいわゆる内勤を希望した女子学生の就職未定者は、出来るだけ早い時期に方向転換を図るなどしかるべき措置を取るよう進言したい。

終わりに今日まで学生の就職にいろいろとご尽力戴いた先生方にお礼を申し上げると同時に、今後も一層のご協力をお願いする次第である。

(平成4年10月15日記)

第二放射薬品学教室

助教授 木村捷二郎



今から30年程前、米、ソを始めとする第二次大戦戦勝国の核実験によって、世界中がフォールアウト（核分裂降下物）で汚染された。一方、我国でも東海村に原子力研究所が発足し、コルターホール型炉による灯とともに原子力平和利用時代

が始まった。また、当時、放射線（能）の理解と測定法を習得させるべく、薬学に放射化学教育が導入された。卒業時、「このまゝ、薬系企業に勤めるのも…」と、国立大学の原子力研究機関に助手として10年半勤務した。

昭和49年秋、本学に戻り、放射化学の研究室をお預かりすることになった。赴任早々、榎元学長より、当時、大学院設置申請の条件の1つであった「R I 研究施設の建設」と「放射化学の充実」を言い渡された。しかし、学内の設備、機器は乏しく、また、実習時に1台の測定器に学生が10数名。当時の橋本助手や三島助手には教育と研究の両面で苦勞をかけた。

昭53年春、本学の第5期工事竣工とともに現在のR I 研究施設が完成し、小規模であるが施設の半分を放射化学、半分を共同施設として学内でも非密封R I を利用できるようになった。

その後、薬学への放射化学教育の導入目的と国家試験を横目で見ながら、教室の研究テーマを「薬学領域での放射線の利用と安全管理」とした。内容的には、「環境および食品中の長寿命核種の分離分析と挙動解析」、放射線の利用の一つとして「医薬品の放射線殺菌」を始め、以後10数年が経過した。テーマ的には2足ワラジを履いてしまったが、お

陰でいずれも学外においてそれなりの評価を頂き、研究費等の援助も幾つか頂けるようになり、研究室員（山沖副手、大学院生2名、学部学生8名）とともに頑張っている。また、R I 施設の管理と安全取扱指導、さらに、これに関する開発研究には泰松助手が分担してくれている。この安全管理の分野でも「大阪薬大」の名が少しは知られるようになり、「ぜひ卒業生を…」の連絡が増えている。

数年前、学内の教室名が整理され、「第二放射薬品学」に変更された。配属されてくる4回生と院生には社会で通用するよう“第一種放射線取扱主任者”の国家試験を受けるように指導している。これまで、助手は勿論、数名の学生がこれに合格し、卒業生から十数名の主任者が出た。結婚して主婦となっている者の他、退職した助手はいずれも教育または国公立の研究機関で放射化学の専門家として活躍しており、頼もしい限りである。また、近年、研究室のO Bに限らず「仕事の関係上、主任者の国試を受けることになった。何を、どのように勉強したらよいですか」という卒業生が増え、卒後教育の一端として「R I の安全取扱と主任者受験講習」を考慮中である。これで、榎元学長との約束の60%ぐらい果たせたかな、と考えている。

これから先、研究室として“放射線利用による徐放製剤や機能性医用材料の開発”等も取組みたいテーマである。しかし、地球レベルでの人類生存のための人口、エネルギー、環境問題などへ放射線技術をどのように生かすか、やるべきことは山ほどある。「自分の専門は放射化学」と決めたら研究室を訪れてほしい。



高速X線結晶回折装置システム

生体内で重要な役割を果たしている生理活性分子の立体構造ならびにそれらの受容体分子との相互作用様式を分子/原子レベルで解析することは生命現象の解明に必要不可欠である。特に“創薬”を最終目的とする薬学領域においては極めて重要な研究課題である。この目的達成の為に最も有効かつ効果的な手法の一つにX線結晶解析法があるが、本学は既に昭和48年度に超強力X線発生装置を、昭和53年度に単結晶自動X線回折測定装置を導入し、現在までに有機系、物理化学系、生物系の各分野に対して、それぞれ、重要な生理活性分子の立体構造の解明とその構造活性相関の解析に重要な情報を数多く提供してきた。

一方、天然物や生体材料から目的物質を分離精製する技術や装置の進展に伴い、さらにまた、遺伝子工学や蛋白質工学の進歩とあいまって、従来より微量でかつ不安定な高分子量の生理活性分子の立体構造解析も研究対象になってきた。特にこれら分子の示す特異的な活性機能を分子レベルで解明し、それに基づくドラッグデザインを研究する上で、立体構造解析は極めて重要となる。従って、その目的達成のためには多量のX線回折データを短時間内で精度良く測定することが不可欠となる。本学においてもこの様な要求に十分対応できる研究装置の導入が切望されてきた。

表 1

X線結晶解析装置	—	高分子用X線回折装置
	—	低分子用X線回折装置
	—	粉末X線回折装置

表 2

装置名	単結晶及び粉末X線回折装置
設置場所	X線室
世話人	大石助手
〔責任者〕	〔石田教授〕(第二物理化学教室)
利用資格	本学教職員および大学院院生
利用規程	添付の利用規定に従う。
利用の仕方	所定の申し込み用紙(添付)に必要な事項を記入し、測定サンプル(出来れば単結晶の状態)と共に大石助手に提出する。測定並びに解析を独自で行う場合も大石助手への届け出が必要。
使用料金	添付の使用料金表に従う。

既存の超強力X線発生装置は導入されてすでに20年近くになり、X線発生に必要な高真空状態の維持が困



写真-1 高速X線結晶回折装置システム

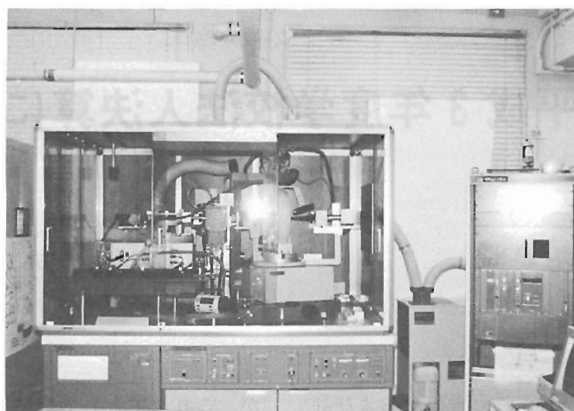


写真-2 低分子用量結晶X線回折装置システム

難になりつつあること、X線回折装置も導入後14年を経過し、その測定精度維持には完全なオーバーホールが必要となってきたこと、さらに前述の理由による迅速で高精度な検出装置の必要性から、今回、高速X線結晶回折装置システム（高分子用単結晶X線回折装置）が導入された。本システムは①高速X線回折測定装置（R-AXIS IIC）、②回転対陰極形強力X線発生装置（RU-3000）、③冷却用循環式送水装置（18KW用）より成ってはいずれも理学電機製である。R-AXIS IIC（写真1）の特徴は、従来回折X線の検出にシンチレーションカウンターが用いられていたのに対し、新しく開発されたイメージングプレート（IP）と呼ばれるフィルムが使用されていることにある。一般に分子量が500程度の場合、その構造解析に約2000~3000反射のデータ測定が必要である。分子量が大きくなるにつれ、測定すべき反射も対数的に増加する。シンチレーションカウンターの場合、各々1反射ずつ測定し、全測定に数日から数週間を要する。これに対し、IP装置は1フィルム（20×20cm）上に数千反射を一挙に記録させ、その後レーザービームを用いてデータを読取る装置で、数万の分子量を有するタンパク質に対しても1~2日でデータ測定が終了し、不安定な分子の構造解析に極めて有効である。従って、従来からの低分子用単結晶X線回折装置（今回、オーバーホールされた）（写真2）との併用により殆どの試料に対する結晶構造解析が可能となった。X線発生装置（RU-300）は、高真空維持に磁気シールを用いることで極めて安定したX線の発生を可能にした（既存のX線発生装置も磁気シール化がなされ、安定したX線源を得ている）。18KW用循環式送水装置はこれらX線発生装置の冷却に効率良く機能し、現在、表1で示される本学のX線結晶解析装置（システム）は極めて順調に運転されている。この装置は本学の共同利

用機器であり、表2の利用の手続きおよび表3の利用規定に従って運用されているので積極的な利用を切望する次第です。（記・教授 石田寿昌）

表 3

X線結晶解析装置利用規定			
1	本規定は低分子用X線回折装置、粉末X線回折装置及び高分子用X線回折装置の利用に係わる規定を定める。		
2	X線回折装置を利用しようとする者は所定の申込用紙を記入の上測定試料と共にオペレーターに提出する。装置に影響を及ぼす試料は原則としてその測定を禁ずる。		
3	X線回折装置によるデータ測定は原則としてオペレーターによって行われる。但し、装置に関する一定の水準以上の知識を有しオペレーターがその使用を認めた者はこの限りではない。		
4	オペレーターはX線回折装置による測定を業務とするが、その解析は請け負わない。		
5	1検体当たりの測定料金は大学内又は大学外（大学関係又は会社関係）試料によって区別され、次の表の通りである。		
X線回折装置の使用料金（円）			
	学 内	学 外	
		大学関係	会社関係
低分子用X線回折装置	10,000	25,000	50,000
粉末X線回折装置	300	1,000	5,000
高分子用X線回折装置	20,000	50,000	100,000



平成3年度学校法人決算について

事務局長 河野光次

去る平成4年5月29日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成3年度の決算が審議のうえ承認されたので、消費収支計算書総括表を掲載し、その概要を説明することとしたい。

<収入>

平成3年度における帰属収入の合計は、予算比1億242万余円増の24億4725万余円であった。

特記すべき事項として、収入の増加の面では、高金利の持続により資産運用収入（預金利息）が予算比1億934万余円増と大巾に増収となったことがあげられ、一方収入の減少の面では、国の補助金である経常費補助金が前年度比2752万余円減の3億2064万余円となったことがあげられる。

<支出>

平成3年度における消費支出の合計は、予算比7525万余円減の18億4035万余円であった。

管理経費が予算比1117万余円の支出増となっている

が、これは主として突発的な修繕費（野遠グラウンド水路改修工事他）の発生によるものである。

<基本金組入れ>

平成4年3月に、理事会における本学移転計画の決定にもとづき高槻市阿武山地区に土地（約59千㎡）を購入した。この土地の購入費用のうち積立金の取崩し額と借入金（日本私学振興財団より）の額を除いた16億円が基本金組入額に計上されたため、平成3年度の基本金組入額合計は、予算比12億3576万余円増の17億4676万余円となった。

なお、平成3年度の決算は以上のような結果でありましたが、限られた資金をより有効に活用すべく、効率的な予算の編成と運用を目指し、昨年より予算制度の改革に取り組んでいます。本年も引き続き推進してまいりますので、関係各位のご協力をお願いいたします。

平成3年度消費収支計算書総括表

〔平成3年4月1日から
平成4年3月31日まで〕

消費収入の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
学 生 納 付 金	1,538,100,000	1,541,450,000	△ 3,350,000
手 数 料 金	94,700,000	80,511,100	14,188,900
寄 付 金	0	24,711,572	△ 24,711,572
補 助 金	380,200,000	349,839,133	30,360,867
資 産 運 用 収 入	270,000,000	379,349,264	△ 109,349,264
事 業 収 入	12,220,000	12,449,420	△ 229,420
雑 収 入	49,610,000	58,943,646	△ 9,333,646
帰属収入合計	2,344,830,000	2,447,254,135	△ 102,424,135
基本金組入額合計	△ 511,000,000	△ 1,746,768,725	1,235,768,725
消費収入の部合計	1,833,830,000	700,485,410	1,133,344,590

消費支出の部 (単位:円)			
科 目	予 算	決 算	差 異
人 件 費	1,271,100,000	1,238,238,410	32,861,590
教育研究経費	539,210,000	510,652,401	28,557,599
管 理 経 費	61,750,000	72,926,203	△ 11,176,203
借入金等利息	13,550,000	17,479,128	△ 3,929,128
資産処分差額	0	1,061,125	△ 1,061,125
(予 備 費)	30,000,000	0	30,000,000
消費支出の部合計	1,915,610,000	1,840,357,267	75,252,733
当年度消費支出超過額	81,780,000	1,139,871,857	
前年度繰越消費収入超過額	469,084,204	469,084,204	
翌年度繰越消費収入超過額	387,304,204	0	
翌年度繰越消費支出超過額	0	670,787,653	

ヨーロッパ生命倫理セミナーに参加して

哲学・助教授 松島哲久



本年8月3日から7日にかけてオランダのナイメーゲン・カソリック大学において『ヨーロッパ生命倫理集中セミナー』が欧米の医療関係者、生命倫理学者等を集めて開催される旨の案内状と参加呼びかけの依頼状が、上記大学の医学哲学

・倫理学の教授で、ヨーロッパ医学・医療哲学会会長のテン・ハーヴ氏より森下先生宛に届き、私が当セミナーに参加することになりました。セミナー開催の主旨は、アメリカ合衆国で成立し、今や全世界的規模で展開されている生命倫理の提起する諸問題について、アメリカの生命倫理学者を交えつつ、古い伝統を有するヨーロッパの視点から徹底的に論じ合うというものでした。私も日本学術振興会の科学研究費によって『日本における生命倫理の体系化の試み』というテーマで共同研究にこの2年間携わってきたこともあり、非常な関心と期待を持ってセミナーに参加いたしました。

ナイメーゲンはアムステルダムの南東に位置し、汽車で約1時間半の閑静な美しい大学都市ですが、第2次世界大戦でオランダに侵攻したナチスの最初の攻撃目標にされ、都市が全壊した不幸な歴史を背負っております。しかし戦後、都市は旧来どおりに復興され、私の目には古い歴史を感じさせる落ち着いたヨーロッパの典型的な街並のように映りました。そのほぼ中央に大学があって、大学所有のキャンパスで5日間に渡ってセミナーが持たれました。

参加者はオランダはもとより、ドイツ、イギリス、フランスを中心として、スイス、ギリシャ、スペイン、ポーランドも含むヨーロッパ各国、アメリカ、カナダ、インドネシアの医学部教授、開業医、看護婦、哲学、倫理、法学、社会学者など多様な顔ぶれおよそ50人で、

特に一人、ギリシャの大学の薬学部ドクター・コースの女性が積極的に議論に参加していたことに強い印象を持ちました。生命倫理諸問題に関して、医師の側がともすれば肉体的側面に重点を置いて議論を展開する中で、精神的ケアの重要性を強調し、注意を促していたのには感心いたしました。大学に残るものと思ひ、そのことを質問したところ、ドクターを取得して薬剤師として働くことを希望しているとのことで、ヨーロッパの医療の裾野の広さと奥深さを痛感いたしました。

さて、セミナーは朝9時から夕方まで、時に夜10時になることもあるハードなスケジュールで行われ、主に午前中は講演と質疑応答、午後は10人前後の小グループに分かれ、テーマ別にディスカッションを行い、そのまとめを再び全体の集まりの中で報告し質疑応答を行うという形で進行しました。議論に参加するに当たって前もって読んでおくべき論文が1日当たりおよそ10点程度あり、議論は人格の定義から始まり、臓器移植、人工妊娠中絶、医療経済、医療制度、家族関係等にいたるまで多岐にわたって行われました。

講演の質疑応答においては率直な意見交換がなされ、とりわけ小グループに分かれてのディスカッションは白熱し、時にテーブルをたたき合って激論が交わされる場面もあり、欧米のデモクラシーの伝統の深さを身近に感じることができました。議論は終始英語でなされ、特にオランダの人たちの英語力には感心しましたが、参加者それぞれが自分の専門を踏まえて、個性溢れた議論が、国民性、文化的伝統の違いを越えて展開されました。私も日本的感性、価値観、考え方を説明し、議論に参加しましたが、時に激しい反論を受けて動揺したり、また逆に熱烈な弁護を受けたり、といった具合で、充実感は味わいつつも、1日の終わりは、どっと疲れの出る毎日でした。

激しい議論の後の、8時から始まる夕食会はホッと一息つくなごやかな楽しいものでした。ヨーロッパの



ナイメーゲンのキャッスル前庭にて

夏の夜は遅くまで明るく、ワインを飲み交わして、延々と2時間を越え、11時を過ぎることもありました。ここでのざっくばらんな会話がヨーロッパというものを知らうえで非常に役立ったように思います。先ほどまで激論を戦わせていた人たちが、心から会話を楽しんでいる様子は、お互いの人格を絶対的に尊敬し合う、そういう信頼関係があつてのことと強く感じると同時に、それは自己の職業に対する絶対的な自信と誇りに裏打ちされたものであることを感じました。

やがて5日間にわたるハードなスケジュールによるセミナーも終了し、最後のお別れ夕食会の後、参加者全員に修了証書が手渡されました。いろんな国の人が一室に会し、数日間にわたって率直な意見の交換を行い、心からの相互理解を深め、貴重な生の共体験をしたことの記念として感概ひとしおのものがありました。日本からは私の他に2人の参加があり、より広い文化の多様性の中で生命倫理の議論を深めて行くことの重要さが、あらためて欧米の人たちに強く意識されたことは、何にも増してうれしいことでした。他との交流を深めることは、同時に自己の内面を豊かにするものであることを実感いたしました。

次に簡単に議論の概要と私なりに重要と思われた点を報告しておきたいと思えます。

第1日目は、人格の概念の明確化、人間身体についての新しいイメージ、とりわけヨーロッパ哲学の伝統を踏まえての報告がなされ、つづいて生命倫理への基本的なアプローチの仕方および臓器移植についてのディスカッションが行われました。特に私にとって目新しく思われたのは、哲学的人間学に立脚した議論がヨーロッパの哲学、倫理学者によって主としてなされ、人間学および解釈学的視点を医療倫理の中心に据えようとする動きでした。それに対してアメリカの生命倫理学者の人たちが、人格の理性主義的理解に重点を置き、でき得る限り自律の原理を正面に打ち出す立場を取り、両者の間で激論が戦わされました。日本に居るときは、その違いがこれほどまで価値観の違いとして激論がなされるとは、迂闊にも思い及びませんでした。つまりそれぞれの生き方の根本的レベルでの決定の問題にかかわっているがために、容易に妥協を許さない事柄であることがよくわかりました。

議論の要点は、倫理的価値がまず何より文化的伝統、社会的文脈の内から生成し来たものであること、そこから出発して始めて倫理的価値の真の理解も可能であることをヨーロッパの人たち、とりわけ若い世代の人たちが強調するのに対して、アメリカの代表的生命倫理学者の一人は血相を変え、それは自己決定の重要さを蔑ろにするものであり、リベラルなデモクラシーの原則に反するものであると熱弁をふるうことになりました。私としては自己決定の原則を重んじつつ、その自己決断がそれぞれの文化、歴史的伝統に根差したものとしてなされるべきであろうと考えていたのですが、それを述べますとそれではその両者が両立可能な選択肢を具体的に提示せよと迫られるほめになり、その説明に苦勞することになりました。それは直接には、16才の少年が自己決定によって、弟に腎臓を提供するというケースと精神にハンディキャップを負った女性が不妊手術を受けるという2ケースをめぐってのことでした。つまり2ケースとも、その賛否において自己決定を優先させるかどうか、が議論の要点をなしておりました。ヨーロッパの多くの人々は、前者のケースでは、生体腎移植を認めるには若過ぎ、その後の精神的ケアが容易でないことを挙げて、反対であることを主張し、後者に関しても、家族の圧力の有無等の十分な検討がなされる必要があるということが述べられました。問題は、自己決定が優先されなかった場合に結果として、最初のケースでは弟が腎臓の提供が受けられず、家族の誰も望まない状態で、病に苦しみ続けること、第2のケースでは避けられるはずの中絶を行うことになるということである。私は心身合一の立場

から、もう少し身体と精神のかかわりを重視し、身体
の象徴的理解を媒介として新たな可能性を考えてはど
うかということ、その根底にはやはり、それぞれが置
かれている文化的伝統の違いから来る価値観の相異が
あって、無条件に自己決定によってのみ決められない
ことのあること、したがって、差し当たっては自己決
定に反して、別の可能性を模索することがあることを
述べたのですが、心身分離の傾向の強い、そして理性
中心の議論の流れからは、理解してもらうのは容易で
はありませんでした。しかし私の意見にインドネシア
から参加されていたシスターからの積極的な支持があ
ったのには強い印象を受けました。

2日目は、死の定義、安楽死、延命治療の拒否の問
題等について議論が進められ、3日目に人工授精、胎
内診断、人工妊娠中絶という非常に微妙な問題が論ぜ
られました。さらに4日目には、健康と病に関する自
己責任の問題と高齢化、公平な臓器配分と医療制度、
病院倫理委員会の問題といった、医療と社会のかかわ
りに関する事柄が取り上げられ、最終5日目は、精神
に障害を負った人に対する医療倫理問題、実験的治療
に関する問題等が論じられ、最後にセミナー全体のま
とめと全講演および各セクションでのディスカッション
に関する評価アンケートに各自が記入してセミナー
を終了しました。

個々のテーマについての詳しい内容に関しては、持
ち帰った資料を検討し直して論文にまとめたいと思っ
ておりますが、セミナー全体の印象としては、生命倫
理の各自が個々に会おうケースに対して、すべての医
療関係者が、その中には福祉に携わる青年も参加して
おりましたが、職業の違いを越えて、対等に、共同の
責任を自己および社会に対して負っているという強い
自覚が共有されていたように思います。そして徹底し
た討論を通して、新たな共通理解に達し、そこから新
しい医療の可能性を求めて行く姿勢というものが感じ
られ、翻って日本においてこのような共同経験の少な
いことに、少なからぬカルチャー・ショックを受けま
した。人類愛を理念として掲げ、説くことは容易とし
ても、それを生き生きとした人間的交流の中で生かし、
実現することの難しさと、その課題の崇高さとを同時
に感じつつ帰国の途についた次第です。

最後に、過去に幾多の試練をくぐり抜け、今も大き
な変動にさらされ、苦悩の真っ只中にありつつも、高
い人間性をたたえつつ営まれ続けているヨーロッパの
生に、10数年振りに巡り会える機会を与えてくださ
いましたことに深い感謝の念を表しつつご報告を終え
たいと思います。

平成4年度 文部省科学研究費補助金採択状況

研究代表者	研究種目	研究課題	金額 (千円)
教授 森本 史郎	重点領域 (継 続)	血管内皮細胞におけ るエンドセリン-1 の産生機構	2,400
教授 石田 寿昌	一般研究B (継 続)	mRNA キャップ構 造認識タンパク質の 遺伝子発現と認識機 構の構造解析	500
教授 池田 潔	一般研究C (継 続)	ホスホリパーゼA ₂ の触媒機能の分子論	600
助教授 木村捷二郎	一般研究C (継 続)	γ線照射による製剤 中医薬品の活性変化 に関する研究	300
教授 栗原 拓史	一般研究C (継 続)	抗ウイルス性海洋天 然物ユーディストミ ン類緑化合物の合成 と構造活性相関に関 する研究	600
教授 千熊 正彦	一般研究C (継 続)	ヒドロキソ架橋型複 核白金錯体の生成反 応および化学反応の 速度論および平衡論 的解析	200
教授 森本 史郎	一般研究C	脳内組織カリクレイ ンの産生機構とその 調節機構に関する研 究	2,000
助教授 春沢 信哉	一般研究C	シグマトロピー転 位一環拡大反応：遷 移状態の定量的解析 法の研究と天然物合 成への応用	1,000
助手 浦田 秀仁	奨励研究A	L-DNAを用いる DNA-薬剤相互作用 メカニズムの解明	1,200
講師 土井 光暢	奨励研究A	グラミシジンSの会 合状態と細胞膜への 作用機構	800
助手 大石 宏文	奨励研究A	ポリマミンとZ-D NAの相互作用に関 するX線構造研究	800



第27回大薬祭を顧みて

学生部長
稲 森 善 彦

第27回大薬祭は、関係各位の御援助、皆様の御協力のもとに、11月9日、午後8時頃無事に終了した。昨年の第26回大薬祭と同様、天候を気遣ったが、実行委員の諸君の努力と気魄が天に通じてか、初日、2日は晴天に恵まれた。例年のことであるが、ピロティーで“カン、カン”と響く槌音で、大薬祭がはじまり、11月7日で祭は最高潮となった訳であるが、これもすべて実行委員を中心とした参加諸君の少しでも『祭』を盛り上げようという信念だと学生部長として心から拍手を送りたい。“からおけ”にしても、ミス薬大にしても1回生諸君のパワーには感動もし心強く思った。若さと数のエネルギーは立派なもので、どうかいつまでもそのパワーを失わず Endless Festival にしていただきたい。一方、4回生の特別実習の学生諸君の活躍も素晴らしかった。気の合った演技、忙しい実験の合間での練習であれ程の成績を納めたのだから、貫録十分であった。この努力、この喜び、学生時代でないと味わえない絵巻は終生諸君の心の支えになると私は確

信している。私も学生部長在任中最後の大薬祭なので出来る限り文化発表も参加した。平素頑張って練習したにも拘わらず参加者の数の少なかったことは正直淋しかった。しかし、学生諸君は日頃の練習の成果を十分発揮していたようで、これこそ君達の血となり肉となることで誰のためでもないのである。あいにく3日目は雨であった。しかし1回生を中心とする模擬店の諸君は雨にも負けず頑張っていた。テントの中で、いろいろな御馳走(?)が出来るのは学生時代だけで、教授室まで出前の注文取りの努力には頭が下がった。要は悔いのない、精一杯楽しむ大薬祭であったなら良いのであって、これは個人個人の心の中で問うてほしい。

近く反省会を開催の予定であるが、3日間感じたままを述べたい。

(1) 毎年のものであるが、一般学生の参加が極めて少ない。これはなにも大阪薬科大学に限ったことではないが、来年こそどうすれば一般学生も参加するかを考

火傷しそう！ この熱気



Endless
Festival

えてほしい。会場と模擬店が分散するためか、模擬店開催中は会場である体育館は閑古鳥が鳴く有様で、出演している文化部の学生諸君には気の毒であった。“からおけ”予選、決勝，“ミス薬大”ならびに“バラの祭典”ではかなりの数の学生が参加した点から考えて、文化部発表の時間帯を模擬店と重ならないようにするのも宿題の1つと言えよう。

イベントも成功であったと思う。特に、中高生の女子生徒の熱狂的ファンが『雨上がり決死隊』や『FUJIWARA』に集まったようだが、警護班の学生諸君の働きには頭が下がった。実行委員ならびに各クラブ部員の方々の素晴らしい連携プレーだったと思う。また寒い中、たとえ交代とは言え、研究棟付近の見張りも御苦労であった。改めて感謝の意を表したい。来年こそ、タレント以外に心に残る講演を聞くのも良いのではないだろうか。

(2) 急性アルコール中毒に関してあるが、実行委員の諸君の徹底した注意のお陰で事故なく終了したこと

は大変喜ばしい事である。「彼はこの程度なら大丈夫」という言葉がよく聞かれるが、これは全くナンセンスで、その日の体調もあれば、注意をおこたると大変不幸な結果を招きかねない場合がある。毎年、急性アルコール中毒で若い貴い生命を失っている事を考えると背筋の寒くなる思いをする。アルコールは中毒量と致死量の範囲の狭いことを念頭に置き、今後は心して飲んでいただきたい。実行委員会の熱心な注意にも拘わらず、ビール、酎ハイ以外の日本酒などを持ち込んでいた諸君があるやに聞く。全くなさけない事である。酒を飲まないと盛り上がらないようでは困る。適量を楽しく飲み、有意義な大薬祭を続けてほしい。

来年も大薬祭が続き、かつ今年の実行委員や参加諸君の苦労が実を結び、より充実した大薬祭になることを念願する。

最後に、学祭の立役者である実行委員会の諸君、学友会執行委員会および各クラブ部員の努力を称えたい。





第10回公開教育講座について

公開教育講座委員

教授 掛 見 正 郎

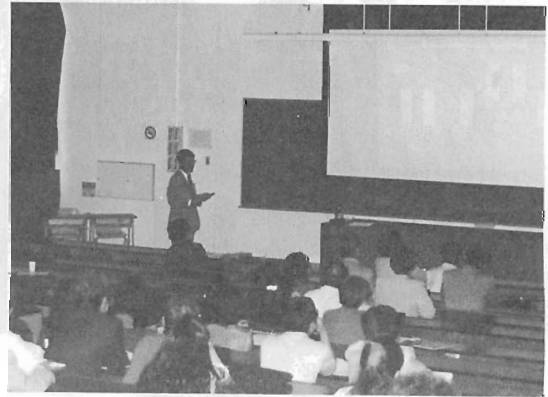


大阪薬科大学では、毎年8月に、本学の卒業生ばかりでなく開局薬剤師、病院薬剤師、医療従事者、一般市民を対象に公開教育講座を開催してまいりました。本年で丁度10回目を迎えることとなります。本公開講座の特徴は、毎年学内外の高名な先生方をお迎えして、最先端の学問水準で、格調の高い講演会を企画することであり、各方面で極めて高い評価を得てまいりました。しかしながら一方では、薬剤師や研究者はともかく、一般市民を対象とするにはやや難解である等の意見もきかれるようになり、それが原因であるかどうか判りかねますが、毎年受講者が著しく減少してきたことも事実です。(表1)

そこで今回は、第10回目の節目の年にあたることから、本公開教育講座の抜本的な改革を行うことに致しました。その要点は、対象を地域の開局薬剤師、病院薬剤師、管理薬剤師、医療従事者にしほること、「薬剤師の生涯学習」を積極的に支援するものであること、

毎年テーマを選定して大きな視点から「医療」を見つめ直すものにするなどです。幸い本年は、財団法人日本薬剤師研修センターとの共催が実現し、社団法人大阪府薬剤師会の協力も得て、「新しい医療とこれからの薬剤師」というテーマで、10月17日(土)、24日(土)、31日(土)の3日間、下記プログラムの通り開催することに致しました。

方針が決定され講演の先生方が決定したのが7月下旬、広報活動に入ったのが9月中旬、準備期間が短かったため、本学同窓会、大阪府薬剤師会はじめ各方面には大変ご迷惑をお掛けしました。この場をかりてお



わび申し上げます。

このような広報の不備にも拘らず受講申込総数は86名で、このほとんどが開局あるいは病院薬剤師で、今回はじめて参加された方も大勢おられるようでした。(学内参加者は約120名) 熱心にノートをとる受講者も

表1 卒後教育講座(昭和58年～昭和59年)、公開教育講座(昭和60年～)
有料受講者総人数

年度	昭58	昭59	昭60	昭61	昭62	昭63	平1	平2	平3
有料受講者総人数	280	120	86	85	57	59	36	44	34

多く、講演後の質疑応答も活発で、改革1年目にしてはまずまずの公開教育講座ではなかったかと自賛しております。これもひとえに受講された方々、学内の先生方のご協力の賜と委員一同感謝いたしております。

3日間の公開教育講座をすべて受講された方には、大阪薬科大学と日本薬剤師研修センターからの修了証が授与され(42名)、また1日の受講につき大阪府薬剤師会から、5単位分の「薬剤師生涯教育受講証」が交付されました。なお最終日には、本公開教育講座に関する21項目に及ぶアンケート調査を行いました。こ

の結果につきましては現在集計中で、別の機会に公表する予定ですが、この中で、講演された村田敏郎先生、川合 満先生、千熊正彦先生、多田道彦先生、小宮山貴子先生、森下利明先生それぞれに対して熱心なご意見が書かれており、本講座への関心の高さが伺われました。

本年から行った公開教育講座の改革方針は、ここ数年間は堅持する予定です。これに関してご意見がございましたら気軽に、公開教育講座委員までお寄せください。

第10回大阪薬科大学公開教育講座 プログラム

10 月 17 日 (土)	12:00	受付	
	13:20	第10回公開教育講座開講の挨拶	大阪薬科大学長／久保田晴寿
	13:30	「日本薬剤師研修センター設立の目的と意義」	日本薬剤師研修センター理事長／村田 敏郎
	15:00	「気管支喘息……治療方針の移り変わり……」	京都大学胸部疾患研究所・助教授／川合 満
10 月 24 日 (土)	13:00	受付	
	13:30	「がんと微量元素」	大阪薬科大学・教授／千熊 正彦
	15:00	「心臓血管病：基礎と臨床」	大阪大学医学部・教授／多田 道彦
10 月 31 日 (土)	13:00	受付	
	13:30	「薬剤師に期待される臨床薬剤業務の実践」	北里大学薬学部・助教授／小宮山貴子
	15:00	「バイオエシックスの話」	大阪薬科大学・教授／森下 利明
	16:30	閉講の挨拶	公開教育講座委員会／草野源次郎

本学元評議員 赤堀四郎先生ご逝去

赤堀四郎先生は昭和56年5月より昭和62年5月までの6年間、評議員として本学の発展のためご尽力くださいましたが、11月3日老衰のため享年92歳でご逝去されました。

先生のご遺徳を偲び謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

本学教授 小延鑑一先生ご逝去

第2生化学教授 小延鑑一先生には、かねてより病氣療養中のところ11月17日、京都市左京区の病院でご逝去されました。(享年62歳)

先生のご遺徳を偲び謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

教務課だより

履修届と受験届でワンセット！

選択科目については、「講義を受けます」という意思表示の履修届と「試験を受けます」という受験届は全く別個の性質のもので、両者そろってはじめてテストを受験できるというシステムを十分理解しておいて下さい。いつものことであるが、印鑑の不携帯や押し忘れの他、各届提出期限後にあわてて提出してきたり、さらには履修届のみでテストを受験できると勘違いしている学生の何と多いことか！

教務課窓口での学生との応対でお互いに最もイヤな思いをするのがこの届提出に関するトラブルであることを学生諸君はもっと認識してほしい。

各提出期限は、行事予定表や各年次別掲示板に明示しており、また例年ほぼ同じ時期に設定しているの各自十分注意して下さい。参考までに平成4年度定期試験受験のための手続きは次のようになっています。

区 分	1年次生	2～3年次生	4年次生
通年科目 前期科目	履修届 4.18	4.18	4.18
前期科目	受験届 6.29	6.29	6.29
後期科目	履修届 10.5	10.5	10.5
	受験届 —	12.5	11.21

(記 教務課長 高橋正好)

第78回 薬剤師国家試験

- 試験期日 平成5年4月2日(金)
および 4月3日(土)
- 試験地 北海道、宮城県、東京都、石川県、愛知県、京都府、大阪府、兵庫県、徳島県、福岡県
- 試験科目 [学説試験]
薬理学、衛生化学、公衆衛生学、薬剤学、薬事関係法規、日本薬局方
[実地試験]
薬剤学、衛生化学、公衆衛生学、日本薬局方

'93入試パンフレットの作成を終えて

例年、4月下旬になると受験生向け入試パンフレット写真撮影の計画を立てる。この入試パンフレットの作成は現在、オープンキャンパスやビデオテープ・テレビ等による大学案内のPRをほとんどしていない本学においては非常に大きなウエイトを占めている。

すなわち、入試パンフレットは受験生に対して、本学の環境、授業・実習の風景、設置機器類等及び学内外における学生の活動等々を唯一アピールできる重要な媒体なのである。

さて、'93入試パンフレットの作成にあたっては、従来より「ソフトなイメージを前面に出す」ことを強く意識して、写真撮影に臨んだ。

そして、完成した入試パンフレットを教職員の方々がご覧になった時に、大阪薬科大学とはこんなにすばらしい大学だったのか(薬大再発見!)という感銘を与えることができればと願ってスタートした。

まず、最初に取り組んだことは「撮影日程表」の作成である。しかし授業・実習、クラブ活動及び機器・装置類の撮影日程は、教務課だけの判断では決められない。各担当の先生及び各クラブ部長の希望日をきき、それらと教務課案との調整をはかる必要があるからである。各希望を基にして次のような「撮影計画」を作成した。

(第1日目) 5月14日(木)

- 13:00～ 中庭・学外
- 14:00～ 薬剤学Ⅰ実習
- 14:30～ 薬剤学Ⅱ実習
- 15:00～ NMR室

(第2日目) 5月25日(月)

- 12:00～ 学生食堂・談話室・喫茶室・中庭・学外
- 12:40～ 女子学生寮
- 13:00～ グループA P O薬学研究部(教室)
- 13:20～ 弓道部(弓道場)
- 14:00～ ハンドボール部(体育館)
- 14:30～ 硬式庭球部(河合テニスコート)
- 14:50～ 薬草園
- 15:20～ 陸上競技部(野遠グラウンド)

[フィールドウォーカーズ部・上方落語研究部はネガを教務課に提出]

(第3日目) 5月26日(火)

- 10:00～ 分析化学Ⅱ(講義)

- 10:30～ X線室
- 12:00～ 中庭・学外
- 12:30～ 軽音楽部（部室）

（第4日目）5月28日（木）

- 10:00～ 物理学（講義）
- 10:30～ 図書館
- 13:50～ 物理化学実習
- 14:10～ 衛生化学実習
- 14:30～ 有機化学実習
- 14:50～ 生薬学実習
- 15:10～ 生化学実習
- 15:30～ 薬理学実習

「撮影計画」が完成すると、この仕事の80%以上は終えたようなものである。

ただ、撮影中の最大の心配事は当日の天候である。学外及びクラブ活動の撮影日は、朝起きるとすぐに窓の外を眺めたものだ。（仕事熱心？）

幸運なことに、5月14日（木）昼からの中庭・学外の撮影で太陽が恥ずかしがって顔を見せず、中止・延期になっただけの影響しかなかった。

学生食堂及び校庭等での撮影においては、学生を呼び止めて撮影の協力をお願いするのであるが、その反応は喜んで協力する者、なかにはVサインをする者、



体を張っての撮影——薬草園

やたらとカメラを意識して顔を作る者又は全く正反対にカメラを見て逃げ出す者など十人十色である。

また、周回しに全く学生がおらず、学生を捜すのに大学内をかなり頻りに走り回った。さらに、学生を捜すだけでも四苦八苦状態であるのに男女半々に捜さなければいけない（本学は「男女共学」であることをアピールしたいため）のは難しかった。

たとえ、学生がいたとしても前述したように逃げ出す学生がほとんどであった。仕方なく、アイスクリームを食べていた学生を呼び止めて食べ終わるまでの約10分間待ったこともあった。

5月25日（月）は移動が多く、重いカメラ装備類を持ち運んでの本学～河合テニスコート～野遠グラウンド～本学の経路は少々お腹の出た身体にはきつかった。特に、薬草園での撮影は小屋の屋根にはしがで上がって薬草園全体を撮影するのであるが、怪我もなく無事終了してほっとしたものだ。

これで、本年度写真撮影も終了し、後はパンフレットに採用する写真を決めるだけとなった。ところが、その数日後、さらにカメラを意識していないごく自然な表情の学生を撮る（いわゆる「隠し撮り」）ことになり、もう1日撮影日を追加することになった。

（第5日目）6月8日（月）

- 12:00～ 学生食堂
- 12:20～ 女子学生寮玄関
- 13:10～ 校庭
- 13:30～ モニュメント
- 13:50～ 学生会館
- 14:10～ 玄関横太陽時計
- 15:30～ 法学等（講義）

この日の撮影では学生に見つからずに、「隠し撮り」をするという仕事は、自分自身が何か変質者に思えて

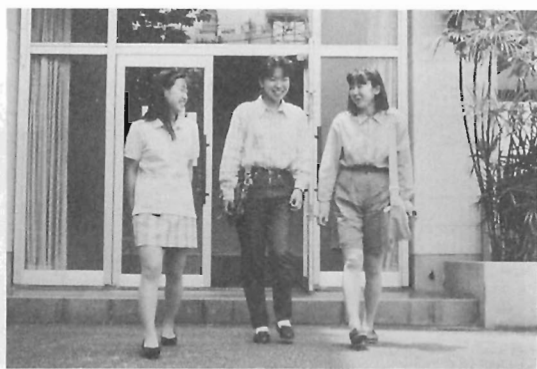
平成5年度

大学院薬学研究科博士 前期（修士）課程入学試験

- 募集人員 約16名
- 出願期間 平成4年9月17日（木）～9月30日（水）
- 学力試験 10月6日（火）【専攻科目（12科目21問から6問選択）・外国語（英語）】
- 合格発表 10月12日（月）
- 志願者 29名〔男子 28（学外1）、女子1〕
- 受験者 29名〔男子 28（学外1）、女子1〕
- 合格者 22名〔男子 21、女子1〕

（2次募集）

- 募集人員 若干名
- 出願期間 平成4年11月25日（木）～11月28日（土）
- 学力試験 12月7日（月）【科目は同上】
- 合格発表 12月11日（金）



学生寮玄関“隠し撮り”

きて複雑な気持ちになった。

特に、女子学生寮から学校へ向かう学生を撮る際、“隠し撮り”に適した場所がなく、仕方なく、食堂横の塀にはしごで上がり撮影を行った。ただ、残念なことに70～80%の確率で学生に見つかってしまい、不審な目で見られたり、手足を蚊に刺されたりで大変であった。

こうして、'93入試パンフレット写真撮影の全日程は終了した。

撮影中はカメラマン及び助手さんが私と同年代ということもあり、お互いに意気投合し、撮影に関する意見交換もでき、和気藹々と仕事ができた。

又、多数の学生と会話ができ、とても楽しく普段教務課内でのみ仕事をする私にとってすべてが新鮮でも有意義であった。

最後になりましたが、撮影に協力して下さった教職員の方々並びに学生の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。

来年度以降もこの写真撮影は続きます。今後共、学生諸君の参加、協力が必要不可欠ですので、カメラを見てもどうか逃げ出さずに、「我こそは大阪薬科大学の“顔”になるんだ」という気構えを持って、撮影に協力して下さいますようお願いいたします。

(記：教務課員 手島 尚)



推薦入試を終えて ('92.11.15)

平成5年度推薦・一般入学試験

	推 薦 入 試 (公募制)	一 般 入 試
募 集 人 員 (男女共学)	薬学部 薬学科 約35名 製薬学科 約35名 } 計約70名	薬学部 薬学科 約85名 製薬学科 約85名 } 計約170名
出 願 期 間	H. 4. 10. 23(金)～11. 5(木) (締切日必着)	H. 5. 1. 11(月)～2. 1(月) (締切日必着)
入 学 試 験 日	H. 4. 11. 15(日)	H. 5. 2. 10(木)
合 格 発 表 日	H. 4. 11. 28(土)	H. 5. 2. 16(火)
入学手続締切日	H. 4. 12. 18(金) 一括方式	[1次] H. 5. 2. 26(金) 2段階方式 [2次] H. 5. 3. 25(木)
試 験 場	本 学	本学・代々木ゼミナール大阪校
入 試 科 目	{外国語} 英語 90分 {小論文} 60分	{数 学} 数学Ⅰ 110分 100点 代数・幾何 基礎解析 {外国語} 英語Ⅱ 90分 100点 英語ⅡB 英語ⅡC {理 科} 化学 90分 100点 (300点満点)

大学院薬学研究科の主な研究分野

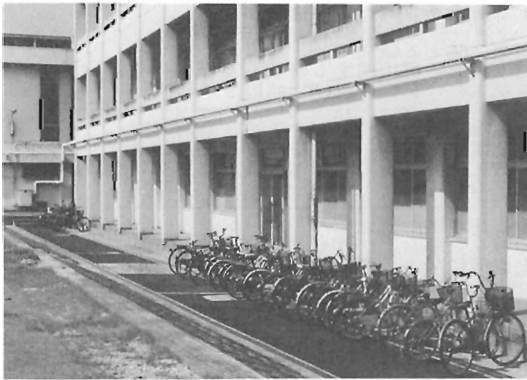
専攻科目	指導教員	研究内容
薬化学	教授 沼田 敦	昆虫生理活性物質の構造および合成に関する研究 抗癌性天然物の構造研究
	助教授 有本 正生	リグナン関連物質の合成的研究 有機金属化合物の研究
生薬学	教授 小澤 貢 助教授 馬場きみ江	生薬成分の構造解析およびその生理活性に関する研究 植物の成分と分類体系の相関性に関する研究
	教授 草野源次郎 助教授 三野 芳紀	植物由来の生理活性物質に関する研究 生薬含有成分の定量法に関する研究 生体の鉄取り込み機構に関する研究
薬品製造学	教授 栗原 拓史 助教授 春沢 信哉	創薬を目指した含窒素複素環化合物の合成研究 環状チオノカーボネートを用いる生理活性天然物の合成研究 合成試薬の開発と応用に関する研究
	助教授 赤木 昌夫	医薬品、生体成分の光化学反応に関する研究 光化学反応による生理活性物質の合成研究 合成オリゴヌクレオチドと抗癌剤との相互作用に関する研究
医薬品化学	教授 松永 春洋	発癌プロモーション抑制作用および癌細胞増殖抑制作用を有するテルペノイド類の医薬への応用研究 抗真菌活性を有する天然有機化合物に関する研究
衛生化学	教授 藤田 直 助教授 藤本 陽子	活性酸素、過酸化脂質の生成と消去に関する研究 アラキドン酸代謝とその調節機構に関する研究
生化学	教授 小延 鑑一	慢性腎不全の代謝と尿毒症物質の研究
	教授 池田 潔 講師 井上 晴嗣	ホスホリパーゼの酵素機能の分子論 細胞成長因子の分子生物学 細胞毒タンパク質の構造と機能
微生物学	教授 保坂 康弘 講師 黒田 和道	ウイルスの抗原提示機構の分子生物学的および細胞生物学的研究 インフルエンザウイルスの体内伝播と免疫系との相互作用の研究 抗インフルエンザウイルス活性をもつ物質やワクチンの研究
	教授 稲森 善彦 助教授 辻坊 裕	海洋微生物の生産する酵素遺伝子の解析および改変 含硫化合物の合成と生物活性 細菌における酵素遺伝子の発現および分泌機構 微生物変換による有用物質の生産 極限微生物の生産する酵素タンパク質の構造と機能
	助教授 松村 瑛子	微生物酵素の応用開発に関する研究 微生物の産生する免疫調節物質に関する研究 神経細胞の分化および生存に影響を及ぼす諸因子の研究
薬剤学	教授 掛見 正郎 助教授 森本 一洋	薬物の生体内動態と薬理効果の消長に関する速度論的研究 医薬品の吸収・分布・代謝・排泄に関する薬物速度論的研究 医薬品の最適投与方法、投与計画の設定と、それに基づいた最適製剤および最適薬物送達系の設計
	教授 森本 史郎 助教授 松村 靖夫	循環器系薬物に関する薬理学的研究 レニン・アンジオテンシン系およびカリクレイン・キニン系の薬理学 エンドセリンの産生機構に関する研究
薬理学	教授 玄番 宗一	腎臓における薬物の膜輸送系 薬物による腎毒性の発現機構 虚血性腎障害の病態生化学と薬理学
	教授 森 逸男 助教授 藤田 芳一	有機試薬に関する研究 医薬品、生体成分の分析に関する研究
薬品分析学	教授 千熊 正彦 講師 齊藤 睦弘	医薬品、生体関連物質と金属イオンとの相互作用に関する研究 微量元素、生体成分に関する分析化学的研究 機能性高分子の分析化学的応用に関する研究
	教授 石田 寿昌	医薬品の構造多形に関する物理化学的研究 医薬品の三次構造と活性相関に関する研究 生理活性ペプチドの構造研究 タンパク質-核酸相互作用に関する物理化学的研究
放射薬品学	教授 田中 千秋 講師 大桃 善朗	放射性医薬品の開発研究
	助教授 木村捷二郎	核的現象および放射線の利用と安全管理に関する研究

学生課だより

自転車置き場の増設について

自転車通学者のために設置している自転車置き場（図書館と実験動物センターの間）には90台分の駐輪スペースがあります。しかしながら年々利用する人が増え、現在ではピーク時に160台の自転車が確認されるに至りました。そのため置き場に駐輪できない自転車が、実験動物センターの北側や図書館の西側などに乱雑におかれている状態が続いていました。この付近は、駐車場への唯一の通路であるため車両の通行が多く通路にはみでた自転車のため危険であり、清掃作業や図書館への出入り等にも支障をきたしていました。このため夏休み期間中に、B棟南側（B棟と芝生の間）の整備を行い、約70台分の自転車置き場を増設しました。

これにより自転車置き場に全ての自転車を駐輪することができるようになりましたので、それ以外の場所には絶対とめないようにして下さい。



休養室の整備について

保健室では、講義や実習中、またクラブ活動など学内でおきる病気、怪我に対して応急の手当を行っています。また程度に応じて病院へ移送するなどの措置をとっています。しかし部屋が狭いためベッドを1台し

か置くことができず、複数の病人、怪我人がでたときに支障をきたしていました。この問題を解消するため、ベッドを2台くらい置ける場所（休養所）を探してきましたが、適当な場所がないために学友会に協力を依頼し、学生会館1階談話室の東北側の部屋をこれに充当することに同意を得ました。この夏休み期間中に改修工事が施工され、8月上旬にベッド2台を設置した休養室が整備されました。



33インチテレビとエアコン、快適です!!

談話室にエアコンとテレビが寄贈されました

5月末に父兄会のご援助によって、学生会館談話室にエアコンが設置されました。これまで談話室にはエアコンがなかったので、夏場の利用者も少なく、窓を開け、下敷きを団扇代わりに風を送っている姿を時々見かける程度でした。早速この夏から利用者も増えてきて、この快適空間を大いにエンジョイしているようです。

また、平成3年度の卒業生（第39期生）により、卒業記念として33インチの大型テレビが寄贈され、談話室に設置されました。

これらの寄贈品によって、談話室では快適な環境において、衛星放送を見ながら談論に花を咲かせることができるようになりました。寄贈された方々のご厚情に感謝するとともに、いつまでも大切に利用して下さい。

（記・学生課長 井頭八郎）

奨学生状況

日本育英会の2次募集をもって今年度の奨学生の募集は終了しましたので、その状況を報告します。

採用者の人数はほぼ平年並でしたが、新入生にとっては、入学者数が多かったため競争率はかなり上がってしまいました。学生課では真に奨学金を必要とする人が奨学生として採用されるよう努力しています。

なお、来年度在学生が応募できる奨学金は主に、日本育英会、大阪府育英会、父兄会奨学会の3つです。

1. 日本育英会

平成4年11月30日現在

	1年次	2年次	3年次	4年次	M1	M2	D1	D2	D3	合計
1種	22	27	25	23	4	7	1	1	1	111
2種	25	30	20	26	—	—	—	—	—	101
計	47	57	45	49	4	7	1	1	1	212

○ 1種は無利息，2種は利息付

2. その他の育英会・奨学会

	1年次	2年次	3年次	4年次	大学院	計	給・貸
父兄会奨学会 20,000円	4	3	1	1	5	14	給
小野奨学会 30,000円	1	1	0	1	—	3	給
佐藤奨学会 17,000円	0	0	0	1	—	1	給
大東育英会 15,000円	0	3	0	0	—	3	給
朝鮮奨学会 25,000円	1	1	0	0	—	2	給
大阪府育英会 21,000～24,000円	4	6	3	8	—	21	貸
岡山県育英会 35,000円	0	0	1	1	—	2	貸
山口県奨学会 31,000円	0	0	0	1	—	1	貸

○ 「給」は給付で返還を要しない。

○ 「貸」は貸与で卒業後長期分割返還する。

平成4年度関西薬連大会結果

クラブ名	個人部門	団体部門 (参加大学数)
剣道部	女子 丸山志穂子③ (3位)	男子 3位 (9大学中) 女子 3位 (9大学中)
硬式庭球部		男子 7位 (10大学中) 女子 2位 (11大学中)
硬式野球部		4位 (5大学中)
サッカー部		5位 (9大学中)
柔道部	男子 有段の部 田中 敏通① (3位) 無段の部 辻本 賢次① (2位) 赤井 宏充① (3位)	男子 優勝 (5大学中)
卓球部		男子 4位 (5大学中)
軟式庭球部		男子 3位 (10大学中) 女子 優勝 (10大学中)
バスケットボール部		男子 4位 (6大学中) 女子 2位 (7大学中)
バドミントン部	新人戦 男子 川本 庸太① (2位) 女子 上森 雅子① (3位) 女子W 原 寿子③・村田 知子③ (優勝) 男子S 三上 雅久① (2位) 女子S 村田 知子③ (3位)	男子 4位 (9大学中) 女子 2位 (10大学中)
バレーボール部		男子 3位 (8大学中) 女子 2位 (10大学中)
陸上競技部	男子 松本 吉広③ (2位) ハンマー投 女子 清重 容子② (2位) 400m (2位) 4×100mリレー	男子 優勝 (フィールドの部) (5大学中) 女子 2位 (トラックの部) (5大学中)

平成4年度全薬大会結果

剣道部	女子 丸山志穂子③ (3位)	女子 3位 (11大学中)
卓球部		男子 予選落ち
軟式庭球部	女子W 岡崎 智子④・矢部こずえ④ (優勝) 衛藤 尚子②・土井千恵子③ (3位)	女子 優勝 (10大学中)
バスケットボール部		男女 予選落ち

(注) ○の中の数字は年次を示す。

保健室だより

アルコールとビタミンB₁

お酒を飲みすぎるとビタミンB₁の不足をおこしやすいといわれている。アルコールは1日ではほぼ完全に血中から消失するがビタミンB₁は摂取直後から減少し12時間後には正常値より少なく最低になる。その後回復し3日目位に元の濃度に戻る。即ち3日間もビタミンB₁欠乏状態が続いていることになる。

原因

アルコールの代謝分解時にビタミンB₁がかなり消費されるためである。またアルコールは食品中のビタミンB₁が腸管から吸収されるのを邪魔することも原因の一つになっている。

ビタミンB₁欠乏症

ビタミンB₁は神経細胞に比較的多く含まれており糖質の分解に欠くことのできないものである。糖質代謝の潤滑油の役目をしていると同時に中枢末梢神経が正常に働くうえで必要なものであるから不足するとさまざまな症状がおこる。

食欲不振や全身倦怠、浮腫などの症状が現れるだけでなく重症になると心肥大や運動障害もおこることがある。末梢神経に障害があると足がピリピリひきつり力がはいらぬなどの脚気症状がおこる。また息切れ、動悸に悩まされることもある。中枢神経がおかされると脳などの血管障害が進行し精神症状がおこる。

予防と対策

ビタミンB₁欠乏症を防ぐためには週1～2日酒休日をつくりビタミンB₁を十分摂取することが大切である。日本酒を3～5合毎日飲酒している人におこりやすいがビタミンB₁剤を服薬すると回復するのも特徴である。いつもよく言うことであるが食べながら飲むことを心がけ、バランスのとれたおつまみで楽しんで飲んで下さい。



ビタミンB₁を多く含有されているもの

ハイ芽米、麦飯、黒パン、豚肉、牛レバー、大豆、パセリ、オクラなど。

二日酔い

二日酔いになるのは自分の代謝能力をこえて飲んだためでありのみすぎである。

柿は二日酔いによいと言われている。お酒をのんだ翌朝は二日酔いになってなくてもデザートに柿をたべるとよい（胃粘膜を保護しアルコール代謝を助ける）水分を十分にとる。

口あたりのよい食事をする。

休養する。

最近では女性でも二日酔いの薬をほしいと保健室へ言ってくる程女性のお酒をたしなむ人が多くなった。時にはストレス解消にもなるがお酒はホドホドに！

お酒を健康的に飲む方法

お酒を味わって飲み、ホロ酔いをたのしむ習慣をつける。

栄養のバランスがとれたおつまみを食べながら飲む時間にけじめをつけダラダラ飲まない。

一日の酒量一週間の酒量をきめ飲む量のバランスをとる。

酒休日を作る。

自分に適したペースで飲む。

日本酒、ビールなどのアルコール濃度の低いものを飲む。

睡眠薬やかぜ薬を服用する時は絶対お酒を飲まないこと。

（記：保健婦 福島笑子）

図書館だより



増設された第5書庫と、その利用案内

一步中へ入れば、本の背文字が読みづらくて、我が目を疑うほどに本棚の間隔が狭い書庫。この書庫を含めて、56,091冊（平成4年3月末現在）を蔵し、年間、

第5書庫利用案内

1. 利用者は、本学の職員、大学院生、研究生その他特に館長が許可した者としします。
2. 利用者は、図書館事務室に備えてある利用簿に、月日、所属、氏名、時間（時分～時分）等を記入の上、鍵の貸出しを受けて下さい。
3. コピー機利用者は、各自所属教室の「Control Card」を、使用して下さい。
4. 利用者は、火災及び事故防止のため、退出時にコピー機・照明の電源スイッチを切ること及び戸締まりに充分留意して下さい。
5. 利用後は速やかに鍵を返却するとともに、利用簿に、その終了時刻を記入して下さい。
6. 利用時間は、別冊の図書館利用案内に記載の終了時間の30分前までとします。
7. 貸出しは行いません。
8. 図書館員は同行しません。

2000冊をこえる増加をみている本学図書館が、書庫の容量不足を訴えつづけて数年になりますが適切なスペースがなく、加えて大学移転という大事業の具現によって、現在地における図書館の新增設も不可能となってしまいました。

このままでは、増え続ける本を床に置いてゆくほかにすべがないのかと頭をかかえていたところ、この度、実習棟1階に書庫を増設することが認められて、夏休み期間中に整備工事を完了しましたので担当者一同胸をなで下ろしたところです。

この書庫には、外国雑誌製本分（1970年以前のもの）、中止雑誌、紀要および業績集の約7,000冊を移す予定です。又、利用者の便宜をはかって複写機を1台移設します。

利用については、つぎの掲げる利用案内に従って下さい。

ロッカーの独占使用禁止

昨年度、ロッカーの整備が完了して学生諸君の利用に供しているが、最近、鍵の持去りが数多く発生して善良な利用者が大変迷惑をしている。図書館のロッカーは、あくまでも「入館時限定使用」が前提条件であって鍵を持去って個人専用のボックス化するような独占的使用は厳禁する。今後、3日をこえる放置に対しては、鍵を取り替えると共に、内容物品は遺失物として取り扱うことがあるので注意して下さい。

（記・図書課長 村上 昭）



Webster's New International Dictionary

親和会だより

大阪薬科大学親和会は職員の親睦と厚生を計ることを目的として専任の教員および事務職員により組織されています。慣例として、ここ数年は、会員間の親睦を深めるために、夏にはスポーツ大会を、冬には一泊旅行をおこなっています。本年度は、まず7月11日(土)、午後3時より、ボウル国際興業ナンバセンターにおいて、ボーリング大会がおこなわれました。参加者42名はAからJの10チームに分かれ、チーム優勝および個人優勝を目指し健闘しました。成績は、西野講師を中心としたGチームが僅差で優勝し、また、浦田助手が2位の高岡助手にわずか18ピンの差をつけ個人優勝しました。当日は、仕事を忘れ、参加者は接戦のなかに

も和気藹藹と語り合いながらボーリングを楽しみました。

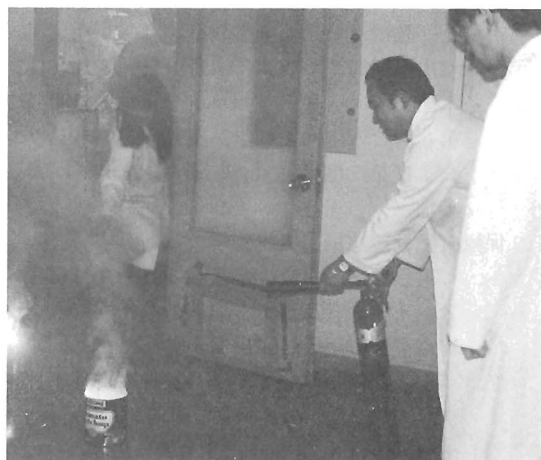
ボーリングで気持ちのいい汗かいたあと、午後5時30分から、なんばCity南館のキリンCityにおいて、パーティが行われました。参加者は、昼間よりさらに増えて48名となり、また幹事の予想をはるかに凌ぐペースのオーダーがあり、幹事一同ふところを心配するというハプニングもありましたが、皆様の御協力のおかげをもちまして無事終了させていただきました。

今後の予定として、本年度は、3月に三朝温泉一泊二日の旅行を計画しています。なるべく多くの職員の方々が、このような行事に参加することにより、職員間の相互理解を深めるとともに、お互いの意志の疎通を計り合うという意味で、非常に有意義と思われるので、奮ってご参加して頂きますようお願い申し上げます。

(記・助教授 辻坊 裕)

消防訓練実施される！

平成4年12月2日(木)10時より、消防法にもとづく自衛消防活動の一端として、研究室附近よりの出火を想定した通報、消火、避難誘導などの消防訓練が実施された。その後続いて運動場において、消火器による火災消火訓練ならびに屋外消火栓の放水訓練が行われた。ノズルが外れて水を浴びるというハプニングもあったが、熱心な訓練に大勢の参加者から拍手がおくられた。



人事異動

助手発令 (平成4年8月1日)

佐藤卓史 (第一分析化学教室)

(平成4年11月16日)

岩永一範 (第二薬理学教室)

配置換発令 (平成4年8月1日)

松尾敬子 (第二分析化学教室・第一分析化学教室より)

教室主任事務取扱発令 (平成4年8月1日)

有本正生助教授 (第二薬化学教室)

西野隆雄講師 (第一薬剂学教室)

退職 (平成4年6月20日)

金尾京子 (事務職員)

(平成4年6月30日)

豊田美奈子助手 (第二分析化学教室)

海外出張

玄番宗一教授 (第二薬理学教室)

<出張期間:平成4年6月28日~7月3日>

イタリア・ローマで開催の第6回国際毒科学会議に出席

松島哲久助教授

<出張期間:平成4年7月16日~8月17日>

オランダ・ナイメーゲンで開催の EUROPEAN INTENSIVE BIOETHICS SEMINAR に参加

松永春洋教授 (化学第一教室)

田中麗子助手 (化学第一教室)

<出張期間:平成4年8月29日~9月6日>

フランス・ストラスブルグで開催の第18回 IUPAC 国際天然物化学会議に出席

掛見正郎教授 (第二薬剂学教室)

<出張期間:平成4年7月31日~8月8日>

米国・ニューヨーク州バッファローで開催の第6回日米生物薬理学、薬動学シンポジウムおよび第7回 Buffalo 薬理学シンポジウムに参加

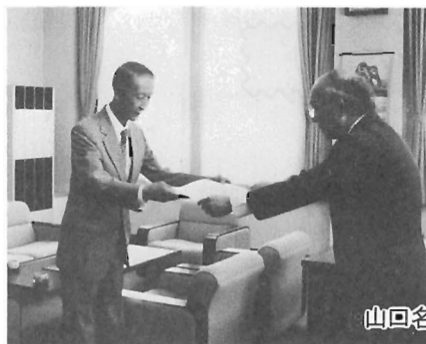
保坂康弘教授 (第二微生物学教室)

1. <出張期間:平成4年9月6日~9月14日>

スペイン・グラナダで開催の第10回ヨーロッパ電子顕微鏡会議に出席

2. <出張期間:平成4年9月26日~10月4日>

フランス・Courchevel で開催の Options for the Control of influenza II 会議に出席



山口名誉教授



酒井名誉教授

名誉教授辞令交付

6月8日 山口秀夫元教授

6月26日 酒井 清元教授

に、久保田学長より辞令が手渡された。

平成4年度

各部・委員会・委員一覧

[No. 26 (平成4年5月1日) 掲載以降]

平成4年5月18日

建設委員会

田中 千秋 (教授)

沼田 敦 (教授)

望月伸三郎 (教授)

石田 寿昌 (教授)

掛見 正郎 (教授)

久保田晴寿 (学長)

森 逸男 (教授)

池田 潔 (教授)

稲森 善彦 (教授)

草野源次郎 (教授)

河野 光次 (事務局長)

平成4年度 後期行事予定

〔平成4年〕

- 10月1日(木) 後期授業開始
前期定期試験欠席届提出締切(教務課)
- 10月5日(月) 後期選択科目履修届提出締切(教務課)
- 10月17日(土) 前期再試験(4年次生)受験者発表(教務課)
- 10月17日(土) }
24日(土) 前期追試験(1~3年次生)
- 10月24日(土) 前期再試験(4年次生)選択科目受験届提出締切(教務課)
- 10月31日(土) 平成5年度特別実習説明会(3年次生)
- 11月2日(月) }
5日(木) 平成5年度特別実習配属願提出(教務課)
- 11月7日(土) }
10日(火) 第27回大薬祭等(臨時休講)
- 11月14日(土) }
21日(土) 前期再試験(4年次生)
- 11月15日(日) 平成5年度学部推薦入学試験
- 11月21日(土) 後期定期試験(4年次生)選択科目受験届提出締切(教務課)
- 11月28日(土) 平成5年度学部推薦入学試験合格者発表
- 12月5日(土) 前期再試験(4年次生)結果発表(教務課)
- 後期定期試験(2・3次生)選択科目受験届提出締切(教務課)
- 12月15日(火) 平成5年度特別実習配属内定(3年次生)
- 12月19日(土) 後期授業終了(4年次生)
- 12月21日(月) }
24日(木) 後期定期試験(4年次生)
- 12月24日(木) 後期定期試験(4年次生)欠席届提出締切(教務課)
- 12月25日(金) }
1月7日(木) 冬季休業

〔平成5年〕

- 1月7日(木) 再試験(4年次生)受験者発表(教務課)
- 1月8日(金) 授業再開(1~3年次生)
- 再試験(4年次生)選択科目受験届提出

締切(教務課)

- 1月11日(月) }
19日(火) 再試験(4年次生)
- 1月26日(火) 第1次卒業生発表(教務課)午後1時
- 1月28日(木) 後期授業終了(1~3年次生)
- 1月29日(金) }
2月3日(土) 特別再試験(4年次生)
- 2月1日(月) }
6日(土) 後期定期試験(1~3年次生)《前半》
- 2月9日(火) 第2次卒業生発表(教務課)午後1時
- 2月10日(木) 平成5年度学部一般入学試験
- 2月16日(火) 平成5年度学部一般入学試験合格者発表
- 2月17日(水) }
23日(火) 後期定期試験(1~3年次生)《後半》
- 2月20日(土) 第1回国試模擬試験(4年次生)
- 2月24日(水) 後期定期試験(1~3年次生)欠席届提出締切(教務課)
- 3月1日(月) }
6日(土) 後期追試験(1~3年次生)
- 3月10日(水) 第2回国試模擬試験(4年次生)
- 3月16日(火) 進級者発表,進級者未修得科目発表(教務課)午後1時
- 3月19日(金) 第40回学部卒業式並びに第17回大学院修了式



2連覇ならず！ '92 親睦野球大会



9月26日・松原市民グラウンド（本学主催）



恒例の四薬大親睦野球大会が9月26日(土)に、今年度主幹校である本学が主催し、松原市民グラウンドにおいて行われた。今回、武庫川女子大学が都合が悪く欠席のため、本学でA、B2チームを結成した。当日になってAチーム、Bチームのメンバー表が公表された。上手下手を考慮した力の均等化された9名のチーム編成であり、交代するメンバーは居ない、しかも負傷者がでると試合にならないという緊迫した状況であった。

試合の前から「A・Bチームで対戦しよう！」という声があちこちより起こった。両方勝ち進み2連覇をかけて決勝戦で合うという意味であったのだが……。

前日は雨で心配された天気も晴れて野球日和となった。午後1時半からの開会式後、Aグラウンドにおいて、久保田学長の始球式により、神戸女子薬大対大阪薬大Aの試合が開始された。主審は公式審判員、塁審は硬式野球部OBの院生が協力してくれた。浦田助手の好投にもかかわらず、相手の速球投手にわずか2安打におさえられ、11:1の大差で敗けてしまった。外野は時折の突風に悩まされたが、珍プレーや好プレーの楽しい野球であった。一方、Bグラウンドでは大薬大Bと京都薬大の対戦が同時に進行しており、高橋教務課長の好投で1回表リードしたにもかかわらず、相手は毎回

得点で、5:8と僅差で敗けてしまった。これで2連覇の夢は消えてしまった。

ホスト校である本学のメンバーが揃う前に相手チームは早々とグラウンドに到着し練習が始まり、あの意気込に飲まれてしまうのではないかと、初めからイヤなムードがあった。早々と乗り込んで来た相手に対して本学の二刀流では力の分散が敗因となったと思われる。

先のA、Bチームでの対戦は別の意味の三位決定戦の形で実現した。Bグラウンドで学長の打席もあり、本学の親睦会となった。Aグラウンドで神戸女子薬大と京都薬大の決勝戦が展開され12:5の大差で神戸女子薬大が優勝した。

5時より本学食堂において懇親会が開催された。栗原教授の司会で進行。久保田学長の歓迎の挨拶の後、各大学の挨拶があり、しばらく懇談ののち、本日の結果発表、優勝カップが学長より神戸女子薬大監督の伊藤教授に贈呈された。また、各チームの優秀選手1名に記念品が贈られた。野球場に来られなかった先生方も多数参加して頂き懇親会は大いに盛り上がった。

20年以上前から欠かすことなく続けられて来た野球大会について、見直しの時期に来ているのではないかと、マンネリから脱出する意味で同好会形式にしてはどうかという意見も出て来ていたが、四薬大の親睦は重要なことであり、スポーツ以外に形が変わったとしても続けて行くべきである。次の機会までよく検討しようということになった。

2校のバスの出発をお見送りしてホスト校としての役割も無事終了した。各チームとも一人も負傷者が出なかったことは幸いであった。

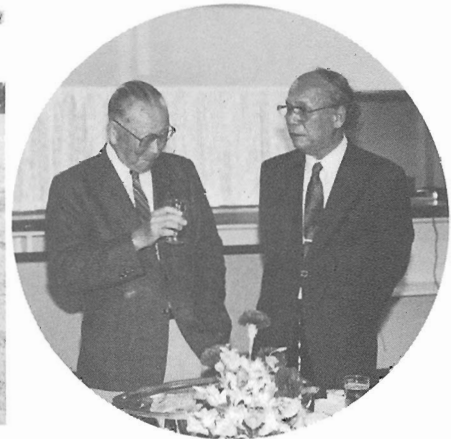
中年での2試合は苦痛であったが、次の日のことも考えず、黄色い声援にハッスルした選手も多く、腕、脚、腰の痛んだことであろう。

裏方の準備及び後片付に当たられた方々、応援にかけつけて乗られた方々に厚くお礼申し上げます。

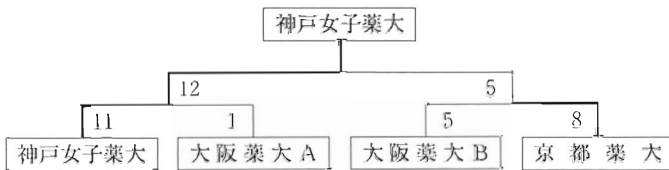
(写真・文 助教授 赤木昌夫)



静観中の応援団



金子理事長（神女薬）と久保田学長

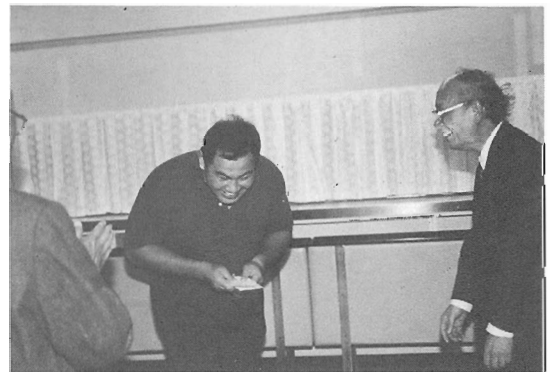


A, B軍とも惜敗?

3位決定戦

	1	2	3	4	5	6	7	T
大阪薬大 A	2	2	0	7	0	0	0	11
大阪薬大 B	2	1	0	0	0	3	1	7

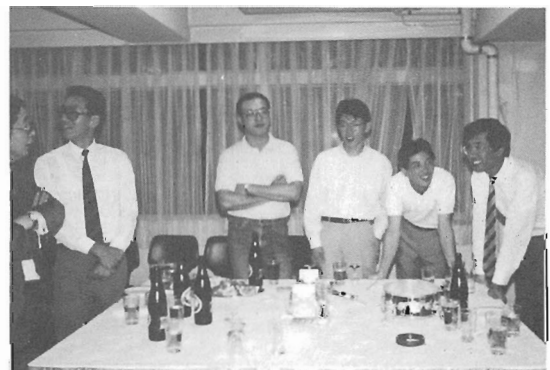
優勝は神女薬



本学の優秀選手：河鱈助手、ニココリ



ビールがうまい!!



つかれた!



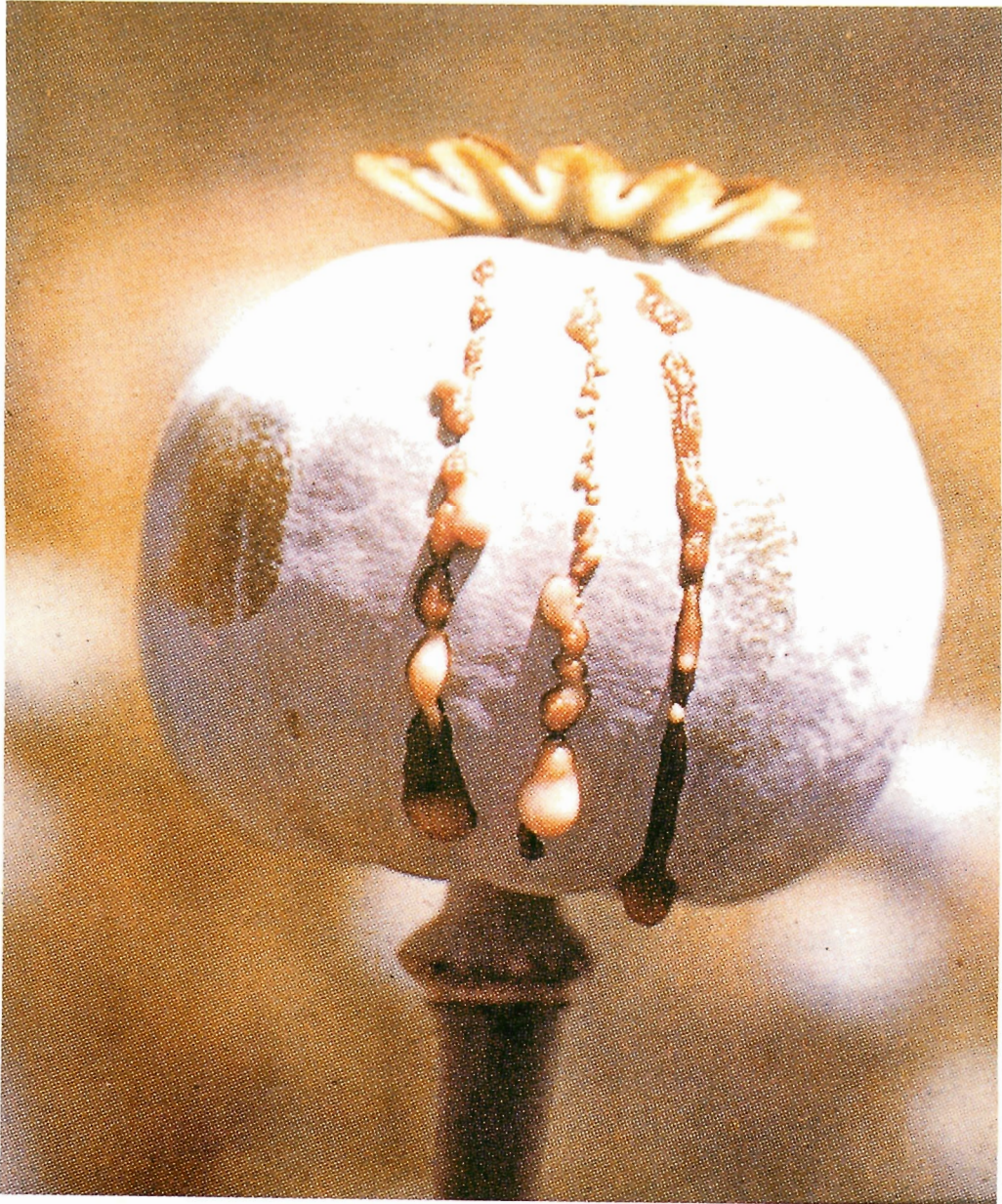
編集・発行

大阪薬科大学広報委員会

〒580 大阪府松原市河合2-10-15

TEL 0723(32)1015(代表)

FAX 0723(32)9929



薬用植物(表紙写真)の紹介

ケシ (Papaver somniferum)

(ケシ科)

「あへん法」等で栽培等が厳しく規制されているので、今回のケシは特別な場所でしか見られない。小アジア原産の越年性草本で、47属700種のケシ科の代表植物である。

約2mに成長する茎は無毛で直立し、全体に粉白を帯びる。緑白色長卵形の互生葉は深く切り込み、元で茎を抱く。5月頃茎の先端に下向きにつぼみがつき、上向きの花は1日でしぼむ。放射相称性の大輪の花は4花卉を有し、多数の雄しべが1個の雌しべを取り囲む。柱頭は放射状に分かれる。白色花が基本種で、紅色、紫色などは園芸種である。

ケシの名前は芥子(カイシ)がなまったものである。芥子は小さい種子を意味し、元来カラシナを指したが、現在ではカラシナはガイシと呼び、転用された方がケシになった。けし粒(つぶ)は細小なことのたとえによく使われる。芥子坊主(ケシボウズ)は、カラシナではなく、ケシの果実を指す。また、放射状の柱頭が残る果実に似て頭頂に髪を残し、てかてかに剃った髪型あるいはその髪型をした男の子や唐人を指した。

このケシは足利義満(1368-1408)の時代に、インドあるいは中国から青森県津軽地方に渡来したといわれる。当時、その地方の十三湊(青森県)が通商の一大中心地であった。その後、ケシは津軽地方で栽培され、江戸時代にはあへん入りの胃腸薬が津軽一粒金丹として製造、販売された。ケシがツガルとも呼ばれる理由である。

花卉が落ちて、2、3日すると子房がふくらむ。この未熟な果実に3枚のカミソリで傷をつけると写真のように乳汁がでる。それを採取し、乾燥固化したものがあへんである。このあへんの製造法はネロ皇帝(在位A.D.54-68年)時代に軍医であったディオスコリデスが残した薬物誌に、今日と変わらない方法が書かれている。その書にはまた「あへんは豆一粒ほどの量で痛みを和らげ眠りを誘うが、飲み過ぎると昏睡し、死に至る」とも記されている。

あへん(阿片)の英名はOpium(オピウム)であ

るが、アリストテレスの弟子のテオフラストス(B.C.371~286年)の「植物の歴史」ではオポスと呼び、ケシの乳液から製造すると書かれている。さらに、ケシに関する情報は人類の歴史を溯り、スイスの湖上生活者の遺跡(新石器時代)にまで達する。

あへんからはモルヒネ、コデイン、パバペリンの3大重要薬物をはじめ、40種ほどのアルカロイドが得られる。モルヒネは鎮痛、催眠、麻酔作用と共に強い麻薬性を示す。コデインは、優れた鎮咳作用を示し、多くのかぜ薬に配合される。パバペリンは平滑筋の緊張や痙攣を抑え、血管を拡張して血行を改善する。血行不全による壊疽などを防ぐ救命薬にもなる。

モルヒネは1803年にドイツの20才の薬剤師ゼルチュルネルによってあへんからその薬効本体として最初に単離された。その発見とそれに続いた研究成果の影響は絶大で、この200年の近代薬学の歩みを方向付けた。モルヒネのお陰で、今日の薬学を支える諸科学の骨格ができ上がり、発展をしてきた。モルヒネを抜きにして、今日の薬学は語れない。

毎年、全世界で700万人が癌と診断され、500万人が癌で死亡している。癌の末期では身体的、精神的、社会的、宗教的な苦痛が混在するが、患者を最も苦しめるのは持続する身体の疼痛である。

これまでモルヒネの麻薬性や悲惨な慢性中毒があまりにも有名で、医師や薬剤師はモルヒネの使用に強い抵抗感を抱いてきた。しかし、4時間毎の少量経口投与や徐放剤あるいは坐剤投与方法が確立し、強い鎮痛効果と共に、モルヒネの麻薬性が回避され、在宅治療が可能になった。モルヒネは医療環境を変化させ患者のQOLを向上させる新しい役割をはたし始めたのである。

薬剤学領域の進歩によってモルヒネの麻薬性は回避されるが、使い方が不適切で、悪用されれば、社会が被る被害は甚大になる。モルヒネの厳重管理と、必要な人だけへの適切な供給は薬剤師の肩にかかっている。モルヒネの効果の使用の拡大と誤用・悪用による被害の撲滅は、これからの薬剤師に課せられた大きな課題である。

病気を治す医療から病人を救う医療が求められている今日、薬剤師にも病人を救う手助けの責任分担が求められている。ケシに含まれるモルヒネがその方法を教えてくれている。

(写真・文 教授 草野源次郎)

目 次

薬用植物の紹介 ケシ	草野 源次郎
新入生諸君へ	学長 久保田 晴 寿… 2
最初の推薦入試を終えて	森 下 利 明… 3
新入生へのメッセージ	千熊正彦・稲森善彦… 4
平成4年度卒業生就職・進路状況	栗 原 拓 史… 6
小延鑑一教授追悼式	10
平成5年度学校法人予算について	河 野 光 次… 13
昔日のこと（退職に際して）	曾 根 節 子… 14
藤井司郎経理課長ご退職	15
消防訓練を終えて	森 本 史 郎… 15
研究室だより 生物学教室	松 村 瑛 子… 16
教務課だより	17
学生課だより	18
図書館だより	19
実験動物慰霊祭	19
学位授与	20
卒業式・入学式	21
平成5年度前期行事予定	21
人事異動	22
平成5年度各部・委員会・委員一覧	23
教員研究業績一覧（1992年）	24
親和会だより	33



メタセコイマの種子



新入生諸君へ

学長 久保田晴寿

新入生諸君入学おめでとうございます。

諸君を大阪薬科大学および大阪薬科大学大学院薬学研究科に迎えることができましたことは、本学にとりましてこのうえない喜びであり、心からお祝い申し上げます。

このたび、入学された諸君は、それぞれ異なった個性をお持ちですが、学部入学者の多様性という点で、本年度は本学で初めて行われた推薦入試に合格し、入学された方が約四分の一おられます。従来的一般入試で選抜された諸君に、異なった基準で選ばれた諸君が新たに加わるにより、本学がより活性化することを期待しております。

さて、学部入学の諸君は、これから4年間大阪薬科大学学生として勉学を続けることとなります。大学は人間形成のための教養教育と、専門的教育研究が行われる学術の中心となる場であります。薬科大学は薬学の教育研究を行う大学であり、薬剤師養成の教育的責任を担った唯一の専門大学であります。そして、薬学は物理学、化学、生物学等の基礎科学の基盤を必要とする総合科学であり、薬を介して医学と融合し、特に人間の生命に深い係わりを持つ学問であります。

諸君が本学に入学して初めの1年間をいかに過ごすが、後の学生生活に大きな影響を及ぼします。自主性や創造性豊かな学習態度をもって学問に情熱を燃やさねばならないのは、正にこれからであることをよく心に刻んで頂きたい。

大学における教育は教える側が学ぶ側に一方的に働きかけて成り立つものではありません。教える側、学ぶ側の両方がお互いに信頼しあい、努力しあってはじめて実りのある教育は成立すると思います。単に試験で良い成績を取れば良いというものではなく、日頃から授業に出席して積極的に学ぶことが大切です。また学生相互間の人間的触れ合いも大切で、クラブ活動などにも積極的に参加して、仲間同志助け合い、励ましあって人間として向上していくよう心掛けていただきたい。

福沢諭吉の著書「福翁自伝」に、諭吉が大阪修業時代の1855年、22歳で緒方洪庵の適塾の門下生となり、蘭学により物理学、化学や医学、生理学などを学んだ様子が記されています。はじめて塾に入門した者は何も知らないから、塾生から選ばれた塾頭ら数人がリーダーとなり、塾生十数人を1グループとして、オラン

ダ語の文法書を教え、あとは数少ない原書を各自が鳥の羽の軸を削って作ったペンで写本して、これをみんな月にも6回ぐらい翻訳輪読して勉強しました。起居を共にする親しい中でも、原書の翻訳だけは教えてくれません。各自が自分で塾に一組しかない蘭和辞典を頼りに勉強するしかなかった。輪読の日の前の晩は、みんな必死で頑張ったと言います。

ある時、洪庵先生が筑前の大名、黒田美濃守に最新の物理の書物を借りてきました。本の中身は新しいことばかりで、特に電気のことに関しては電池の構造などが書いてあるので、みんな魅せられてしまいました。約束の三日のうちに本を返さねばならないので、約50人の塾生が力を合わせて、一人が読み一人が写す、疲れたら代わるということで、三日二晩休まずに交代で書き写して、電気の部分について図まで全部書き写してしまいました。このような原書をもとに塾生達は討論を重ね、実験をして知識を広めました。洪庵は塾生の学習の舵取りをしただけでした。長与専斎、高松凌雲ら多くの医学者のほか橋本左内、大村益次郎、福沢諭吉ら日本の近代化に貢献した多くの逸材を輩出した、150年前のこの適塾の中に「学問は自主的に学ぶもの」、「教育の場は人間形成の場である」という大学教育の基本があるように思います。

さて現在、薬学を修めた者は病院薬剤師や開局薬剤師として医療の現場に働く者、医薬品の創製、製造、管理に携わる者、地域社会の保健衛生に力を尽くす者等、人の健康にかかわる広い分野で活躍しております。諸君は今後、薬学が人類の福祉に貢献する重要な分野として、益々社会の期待を集めるであろうことをよく認識して、本学で薬学を学ぶことに誇りを持って頂きたい。

大学院に入学の諸君は、これからは自立して、自ら学問研究の道を切り開いて進むよう求められます。今日、科学技術の急激な進歩にともない、高度かつ創造的な教育研究の場としての大学院への期待は益々高まっております。諸君は大学院が研究者養成の一機関としてばかりでなく、専門教育をさらに充実し補強する場として、また高度の専門職の養成の場として重要視されていることをよく認識して、学問研究に励んで頂きたい。

終わりに、諸君が本学、および本学大学院で青春時代に悔いを残さない、充実した学生生活を送られるよう期待します。



最初の推薦入試を終えて

—推薦入試の位置づけ—

教授 森 下 利 明

最近、文部省が中学校における業者テストの排除にかなり積極的な姿勢を示していることは、周知の通りである。いわゆる「偏差値」教育の誤りを是正し、教育の正常化をはかろうとする意図であることは言うまでもない。偏差値＝学力という学力観、ひいてはそのような教育観が定着して久しいが、このように教育そのものを歪めてきた原因は、中学から高校、高校から大学への一貫した受験体制にあることが早くから指摘されてきた。したがって高校のみならず大学の入試制度も同時に考え直さない限り、本当の効果は期待しがたいであろう。

私立大学における三科目入試制度は、現在も基本的には変わっていない。が、本人試に先立つ推薦入試制度を、今日殆どの私立大学が採用している。その意図は一樣とはいえないが、基本的には従来の選抜方法ではえられないような優れた学生を集めたい、大学を活性化したい、という点においては考えを同じくするものといえよう。本学といえども決してその例外ではない。本学のごとき薬学の単科大学に、何の目的意識も持たず、ただ三科目の偏差値のみを拠り所として受験する如き学生が増えるようでは実際困るのである。

さて、それでは私たちは、推薦制によってどのような学生を選ぼうとしているのか、という点に答えておかなければならない。言うまでもなく、入学試験とはすなわち学力試験の意であると一般に理解されてきた。一定水準の学力なしに、大学教育を受けることはまず不可能であろうからである。それでは学力とは何か。いま仮にそれを「学習によって得られた能力」と規定するならば、確かに偏差値がそれををはかる一指標にはなり得るであろう。私たちは学力を点数化することがあまりに日常的であるために、それになれ過ぎている嫌いがなくはない。だが、教育の本質は単に知識の注入にあるのではない。学び得た知識を応用し、更にはそこから新しいものを創造してゆく力を身につけさせるものでなければならない。しかしこれを点数化することが甚だむづかしいのである。

ところが、さらに重要な問題がもう一つ。その奥に隠されている。それはまさに、それらの原動力ともいうべき、受験生の内心にある「意志」・「意欲」のことであり、ここに至ってはもはや点数化はまったく不

可能といわざるを得ない。意欲とは、積極的に何かをしようとする気持の意であり、一般にいう「ヤル気」のことであろう。意欲は学力よりも遥かに重要なものであると思う。学力はむしろ意欲によって培われるとさえ言い得る。人間は少・青年期に心の中で望み願っていたような人間に結局はなるものだ、という昔からの教えは、人間形成上にもつ意欲の重要性を示唆するものであろう。かくして、私たちは推薦制によってどのような学生を選ぼうとしているのかが、白ずから明瞭となるのである。それは、薬学を学び、それを通じて社会に貢献しようという確固たる意志と、旺盛な意欲とをもった学生であると言うことに尽きるであろう。

以上の如く、私たちがこの度推薦入学制を採用することに決した背後には、意欲は点数化できないという前提があった筈である。尤も、現実には高校に学校差が存在するゆえに学力試験を併用せざるを得なかったが、推薦入学制の本来のあるべき姿から考えると、点数信仰からいかに脱却するかと言う事が、今後の我々に課せられた課題として残るのではないだろうか。

今、大学が危機的な状況の下にあると言う事は私は深刻に受け止めている。大学の自治を誇りとする大学人が、事もあろうに文部省によって「大学自らの責任において、教育水準の向上、教育内容の改善をはかれ」、などと自覚を促されるような事態に立ち至るとは何たる事か。では何が危機的なのか。一つは学生の側に、今一つは大学側の教育体制・教育内容に問題のあることを疑う人はいない。前者は入試改革という形で（推薦制もその一つ）解決を目指し、後者はいま大学の教育改革という形で解決をはかろうとしている。ただここでも指摘されるのは、後者に欠けているのもやはり意欲ではないかと言う事である。やむなく文部省が課した大学の自己点検・自己評価ということも、自分自身のものとして受け止めない限り、即ち自己を客観化して評価するというごとき厳しい視点を持たない限り、改革は一步も進まないのではないだろうか。

意欲を持って学ぶ学生と意欲を持って行う教育改革とは、車の両輪の如く何れを欠いてもならぬ。大阪薬大の命運は大学の移転と言う事においてではなく、一に両者の「意欲」如何にかかっていると云っても過言ではないと思うのである。

新入生へのメッセージ



教務部長 千 熊 正 彦
教 授

新 入 生 を

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。
皆さんは、永かった受験戦争に休止符を打ち、いま心地よい解放感を満喫しながら、未来への希望と大学生活に対する期待感に満ち溢れておられることでしょう。

私自身も大学に入学したとき、先生や級友を通じて、いままでの自分の知的精神的空間がいかに狭小であったかを思い知らされ、大きな刺激を受けたことを忘れることができません。大学では高校で習ったことと全く違う学問の世界があります。自分の可能性を拓げることに貧欲になってほしいと願っています。

新入生を迎えることは大学にとっても最大の喜びの一つであります。ことに本年度は推薦入試および一般入試という異なった選抜方式により多様な能力を備えた新入生を迎えることができたことは私達教務部教職員にとりましてたいへん喜ばしいことであります。

皆さんの今後の活躍ぶりには従来にも増して大きな期待が寄せられていることを知っておいてほしいと思います。

一方、ごく最近、大学の施設や教育内容を細かく規定していた大学設置基準が改正され、これからは各大学が自主的にその特色を出せるようになりました。そのような背景から、現在多くの大学で教育内容や大学のシステマの見直しを行っています。本学も例外ではありません。本格的な改革については、現在論議が続けられていますが、見直しの成果の一つとして、昨年度からは、講義を半年単位に変えましたし、本年度からは「人間と環境」という統一テーマを設定し、人文・社会学の先生と生物学・遺伝子工学などの先生が合同して行う総合科目A、B（1年次生）が開講されます。

人類の生産活動と環境破壊との関係、医学の発展と

生命倫理の関係、病気と環境との関係など幅広い角度から講義されますので、楽しみにして下さい。また、4年次生には薬剤師国家試験のための薬学総合演習も用意されます。

本学の教育目標は二つあり、一つは薬剤師、医薬品開発研究者、医薬情報担当者など、薬に関する問題解決能力を備えた専門職の養成であり、他方は、幅広い教養と自立能力を備え、広く社会的国際的に貢献できる人材の育成であります。この二つの目標を限られた年限で達成するために、私達教職員はたゆまない努力を重ねていますが、これらの目標は皆さんの主体的参加と協力なしには達成することはできません。積極的に講義に出席するとともに、真剣に勉強する姿勢を保って下さい。わからないことはそのままにしないで、先生や先輩に尋ねたり、あるいは多くの参考書が備えられている本学図書館を利用して自主的に勉強されることをおすすめします。

青春を謳歌する一方で、進級や定期試験といった区切りもまた学生生活の重要な要素です。進級のための条件、学内試験の規定など教務関係の重要事項は学生便覧にていねいに説明してありますが、もし不明な点があれば、事務局教務課、アドバイザーの先生あるいは私のところまで遠慮なく問い合わせして下さい。私達は皆さんの学生生活が順調に運ばれるよう、皆さんを援助することに努力を惜しまないつもりです。

最後に、新入生の皆さんが健康に留意され、充実した大学生活を送られますよう心よりお祈り申し上げます。

迎 えて



学生部長 稲 森 善 彦
教 授

新入生諸君，入学おめでとうございます。心より、お祝い申し上げます。元気で、明るい諸君を迎えることのできましたことは教職員一同の大きな喜びでございます。

諸君は長く、しかも厳しい受験戦争に耐え、今日の栄冠を勝ち得られたのですから、ここらで、一息つきたいところでしょう。しかし、諸君を取り巻く社会情勢は決して甘いものではありません。バブル経済がはじけ、不況の波が押し寄せてきていることが連日テレビや新聞で報道されていることを諸君もすでにご存知と思います。いずれ、このような厳しい社会に船出することが運命づけられている諸君は心を引き締めて勉学に励んでください。

高齢化社会をむかえた今日、薬学の道に進んだ諸君の責任は大変重大です。薬学は健康、医療、環境衛生など幅広い面で、人類福祉に貢献するための学問で、諸君の努力しだいで、これらの社会で活躍が期待でき

るのです。薬学は医学と同じく生命と密接に関係を持つ学問ですから、知識だけでなく、人間性豊かな人材が要求されます。したがって、単に、勉学のみならず、人との交わりを通して、暖か味のある幅広い魅力のある人物になるよう努力してください。幸い、本学には、数多くの体育部ならびに文化部のクラブがあります。クラブ活動を通して、良き先輩や友人から、勉学だけでは得られない素晴らしい将来の活躍の核になるものを獲得されることを期待してやみません。

最後になりましたが、相手の立場を尊重しつつ、自分の意志を述べられる人になつてください。若さの素晴らしさはそこに在るのです。私ども学生部委員は大学と学生諸君のパイプ役です。風通しの良い大学であるために、私共学生部委員は微力ながら努力してまいりました。新入生諸君!! 大学に要望があれば、遠慮なく、学友会執行部を通して申し出てください。微力乍ら全力投球してまいる覚悟しております。





平成4年度卒業生就職・進路状況

就職部長 栗原拓史
教授

昨年来の不況の風が吹き荒れる中で、今年度の就職戦線が開始された。新聞紙上等でも周知のように、一般大手企業にあってもかなりのパーセンテージで昨年度より採用予定者を減らすことを決定しているようである。こうした状況下で、平成4年度卒業生の多くは長い就職活動を通して様々な人生経験を積みながらある者は希望通りの所に、またある者は必ずしも第一希望通りではないものの職を得て実社会へと巣立って行った。

まだ3名の未決定者はいるが(3月12日現在)、表Iに示されているような好成績を得ることが出来た、この表から見られる今年の特徴として ①ある程度予想されたことではあるが、薬業関連企業の研究、品管、学術、開発などへの女子学生のいわゆる内勤希望者数111名に対し、決定者は74名、率にして67%の女子学生の希望がかなえられたに過ぎなかった。企業の女子学生に対しての厳しさは相変わらずである。②その結果、女子学生の病院等の医療機関への就職は当初の41名の希望者に対し58名もの決定者が出た。昨今、医療機関からの求人は極めて多く、これでも求人確保に至

らなかった病院が目についた。③医薬情報担当者(MR)への希望者が男子39名、女子16名であったのが、最終決定者が男子35名に留まり、逆に女子は25名となった。この職種は今後、医者と製薬企業をつなぐかけ橋として、また医薬品の正しい情報の提供、伝達者として見直されつつある。④求人企業数は昨年と大差なかったが、若干進路先への多様化が見られた。これ自体は好ましいことのように思える(表II)。⑤男子の公務員希望者が5名しかなかったにもかかわらず、大阪府2名を含む7名の決定者(男女合わせて18名)が出た。定員削減による激戦りの中にあつて、本学学生の底力をかいまみた思いである。

2月から3月にかけてすでに10社以上の人事担当者とは次年度の採用に向けて対談したが、2~3の企業ではMRでさえ2~3割の採用減、女性の学術部門は募集なし、といった厳しい話しも聞かされている。一方、大学院生の就職に向けての活動は既に活発に動いているものの、例年になく不採用の返事が多く聞かれる。

さて、新4回生についての就職業務は昨年通り就職協定に基づき7月1日から企業と学生との接触開始、

(表1)

平成4年度就職・進学内定状況

(平成5年3月12日現在)

	男		女		計	
	人数	率	人数	率	人数	率
薬業関連会社(営業)	35	34.3%	25	12.6%	60	20.0%
(研究・品質管理・学術・開発)	14	13.7	74	38.0	88	29.4
その他	3	2.0	3	1.5	5	2.0
薬局・卸	3	2.0	8	4	10	3.3
病院・診療所	4	3.9	58	29.4	62	20.7
研修生	1	1.0	10	5.0	11	3.6
公務員	7	6.8	11	5.5	18	6.0
進学(大学院, 他)	32	31.3	3	1.5	35	11.7
自家業	1	1.0	2	1.0	3	1.0
その他	2	2.0	2	1.0	4	1.3
就職活動中	2	2.0	1	0.5	3	1.0
計	102	100.0	197	100.0	299	100.0

10月1日から採用選考開始の線が取り決められている。しかし、これはあくまでも表向きのことであって、企業からのダイレクトメール発送、説明会の実施等は水面化ですでに始まっている。就職部としても例年通り4月中旬に就職部委員（木村、中元両先生）と私の3名で学生との面談により学生の就職動向を把握し、その後大学からの企業や病院等への求人票発送をもって本格的に活動を開始する予定でいる。4回生の諸君にあっては、第一希望先の選定、面接時の要領を得た返

答、ブランド指向最優先からの脱却、など真剣に就職に向けて取り組んでもらいたく奮起を期待する。

新入生の諸君はまだ4年先のこととして、就職に対する実感が湧かないものと思われるが、出来るだけ早い時期から“就職か進学か”、“自分にあった職種は”といった大まかなことでも念頭においておくことは必要である。

(平成5年3月15日記)

40期生(平成5年3月卒業) 進路、就職内定一覧

平成5年3月12日現在

[薬業関連企業・その他]

	男子		女子	
	研究	営業	研究	営業
1 尼崎化学合成	0(1)	0	0	0
2 天藤製薬	1(1)	0	0	0
3 伊藤忠ファインケミカル	0	0	1	0
4 エーザイ	0	2	0	0
5 大阪エアゾール工業	1	0	0	0
6 小野薬品工業	0(1)	2	0	0
7 カイゲン	1	0	0	0
8 片山化学工業研究所	1	0	0	0
9 鐘淵化学工業	0	0	1	0
10 協和発酵工業	0	3	0	0
11 クラブコスメチックス	1	0	0	0
12 グラクソ三共	0	1	0	2
13 堺化学工業	0	0	1	0
14 サール薬品	0	0	0(1)	0
15 澤井製薬	0	0	1	0
16 三栄化学工業	0(1)	0	0	0
17 三共	0	1	2	0
18 サンスター	0	0	1	0
19 参天製薬	1(1)	0	1(1)	0
20 サンド薬品	0	0	0	2
21 三宝化学研究所	0	0	1	0
22 三和化学研究所	0	0	1	0
23 剂盛堂薬品	0	0	1	0
24 塩野義製薬	0(1)	1	5	0
25 消費経済研究所	0	0	1	0

	男子		女子	
	研究	営業	研究	営業

26 新日本薬品	0	0	1	0
27 新和物産	0	0	1	0
28 住友化学工業	0	0	1	0
29 住友製薬	0	1	1	0
30 千寿製薬	2	0	1	0
31 ゼネカ	0	0	1	0
32 ゼリア新薬工業	0	0	0	1
33 大正製薬	1(1)	0	0	0
34 高砂化成	0	0	0	1
35 武田分析研究所	0	0	1	0
36 武田薬品工業	0	3	4	2
37 田辺製薬	0(2)	2	1	2
38 第一製薬	0	1	0	0
39 大同薬品工業	0	0	1	0
40 ダイナボット	0	0	0	1
41 大日本製薬	0(3)	3	1	2
42 大日本除虫菊	0	0	1	0
43 大和化成	0	0	1	0
44 中央微生物検査所	1	0	0	0
45 中外製薬	0	1	0	0
46 トーアエイヨー	0	1	0	0
47 東京田辺製薬	0	0	0	1
48 東和薬品	0	0	1	0
49 常盤薬品工業	0	0	2	0
50 ナカライテスク	0	0	1	0
51 ナリス化粧品	0(1)	0	0	0
52 日亜化学工業	1	0	0	0
53 ニチバン	0	0	1	0
54 ニッショウ	0	0	0(1)	0
55 日清製薬	0	0	1	0
56 日本イーライリリー	0	2	0	1

	男子		女子			男子		女子	
	研究	営業	研究	営業		研究	営業	研究	営業
57 日本ウエルカム	0	0	1	0	2 松下産業衛生	0	0	1	0
58 日本グラクソ	0	1	0	0	科学センター				
59 日本シェーリング	0	0	1	0	計	15(20)	35	75(3)	25
60 日本商事	0(1)	0	0	0					
61 日本新薬	0(1)	1	0	0	[マスコミ・出版]			男子	女子
62 日本製薬	1	0	0	1	1 舞ランド			0	1
63 日本臓器製薬	0	0	0	1	2 ワールド・インテリジェンス・			1	0
64 日本たばこ産業	0	1	1	0	ネットワーク				
65 日本チバガイギー	1	1	0	1	・				
66 日本ベーリンガー インゲルハイム	0	2	0	0	1 日本臨牀社			0	1
67 日本コルマー	0	0	2	0	計			1	2
68 日本メジフィックス	0	0	2	0					
69 日本薬品開発	0	0	1	0	[小売・薬局]			男子	女子
70 日本ロシュ	0	0	0	1	1 育星会			0	2
71 ノエビア	0	0	1	0	2 ジャスコ			0	1
72 バイエル薬品	0	1	2	3	3 ダイエードラッグ			0	3
73 萬有製薬	0	0	0	4	4 サンプラザ加地			1	1
74 ビーブランド メディコデンタル	0	0	1	0	5 ニチイ			0	1
75 ビアス	0	0	1	0	6 マツモトキヨシ			1	0
76 藤沢アストラ	0	0	1	0	計			2	8
77 藤沢ファイソنز	0	0	1	0					
78 藤沢薬品工業	0(1)	0	2	0	[病院]			男子	女子
79 藤本製薬	0	0	1	0	1 愛仁会			0	4
80 扶桑薬品工業	0(1)	0	1	0	2 藍野病院			0	1
81 丸石製薬	0	0	2	0	3 藍野花園病院			0	1
82 マンダム	0	0	1	0	4 青山病院			0	1
83 三國	0	0	1	0	5 茨木病院			0	1
84 三井製薬工業	0	0	1	0	6 宇治病院			0	1
85 三井東圧化学	0	0	1	0	7 大澤病院			0	1
86 ミドリ十字	0(1)	0	0	0	8 海南病院			0	1
87 明治製薬	0	0	1	0	9 葛城病院			1	0
88 持田製薬	0(1)	0	1	0	10 河内総合病院			0	1
89 森下仁丹	0	0	2	0	11 北九州総合病院			0	1
90 山之内製薬	0	3	0	0	12 近畿大学医学部附属病院			0	1
91 吉富製薬	0	1	0	0	13 近畿日本鉄道(診療所)			0	1
92 米山薬品工業	0	0	1	0	14 錦秀会			1	2
93 ロート製薬	0(1)	0	3	0	15 倉敷中央病院			0	1
94 和光純薬工業	0	0	2	0	16 甲南病院			0	1
					17 神戸協同病院			0	1
1 大阪労働衛生 総合センター	1	0	0	0	18 公立豊岡病院			1	0
					19 済家会			0	1

	男子	女子		男子	女子
20 西条中央病院	0	1	4 西 脇 市	0	1
21 西 条 病 院	0	1	5 広 島 市	0	1
22 島 田 病 院	0	2	・		
23 城 山 病 院	0	1	1 榛 原 町	0	1
24 総合加納病院	0	2	計	7	11
25 武 田 病 院	0	1			
26 中国労災病院	0	1			
27 寺岡整形外科病院	0	1	[大学院 研修生・研究生]	男子	女子
28 天理よろづ相談所病院	0	1	1 大阪大学 (大学院)	1	2
29 徳 洲 会	0	1	2 大阪薬科大学 (大学院)	25	1
30 トヨタ記念病院	0	1	3 岡山大学 (大学院)	1	0
31 土 肥 病 院	0	1	4 京都大学 (大学院)	2	0
32 中 林 病 院	0	1	5 名古屋市立大学 (大学院)	1	0
33 中 村 病 院	0	1	6 広島大学 (大学院)	1	0
34 西 の 京 病 院	0	2	・		
35 西 淀 病 院	0	1	1 大阪大学 (研修生)	1	5
36 日 生 病 院	0	1	2 九州大学 (研修生)	0	1
37 野 上 病 院	0	1	3 高知医科大学 (研修生)	0	1
38 ハ マ ノ 眼 科	0	1	4 滋賀医科大学 (研修生)	0	1
39 牧 岡 病 院	0	1	5 名古屋大学 (研修生)	0	1
40 広島赤十字・原爆病院	0	1	6 山口大学 (研修生)	0	1
41 藤 井 病 院	0	1	・		
42 府 中 病 院	0	1	1 大阪薬科大学 (研究生)	1	0
43 ベンランド総合病院	0	2	計	33	13
44 舞鶴赤十字病院	0	1			
45 松阪中央総合病院	0	2			
46 行 岡 病 院	0	2	[その他]	男子	女子
47 淀 井 病 院	0	1	1 進 学 予 定	1	2
48 若草第一病院	0	1	2 自 家 業	1	2
49 和歌山赤十字病院	1	1	3 不 就 職	1	0
50 和歌山労災病院	0	1	・		
計	4	58	1 就 職 活 動 中	2	1
			計	33	13
[公務員]	男子	女子			
1 国 家 公 務 員	1	1	合 計	102(21)	197(3)
・					
1 愛 媛 県	0	1			
2 大 阪 府	2	2			
3 滋 賀 県	0	1			
4 奈 良 県	1	0			
5 兵 庫 県	0	1			
・					
1 尼 崎 市	1	0			
2 大 阪 市	2	1			
3 貝 塚 市	0	1			

() は大学院生



小延鑑一教授 追悼式

12月19日 本学体育館

平成4年11月17日御逝去

第二生化学教授小延鑑一先生には、平成4年11月17日午後1時特発性肺線維症のため京都市左京区の病院で逝去された。前年の2月頃より体の不調を訴えられ、療養に専念されていた。その間、講義や研究指導は休止することなく続けられ、教授会にも大凡は出席されていた。10月21日の夜、講義資料の準備中気分が悪くなり、緊急入院された。そして薬石効もなく、奥様、ご家族の手厚い看護の甲斐も空しいまま、僅か1ヶ月足らずの入院で不帰の人となられた。

告別式は、11月20日京都市東山区の戎光寺で執り行われ、ご親族はじめ大学関係者、学会関係者や友人、知人等多数の方々が参列された。

追悼式は、12月19日午後1時より本学体育館において、ご遺族のご令室小延喜久子様、ご令息裕之様、同夫人泰子様、ご令息貴之様のご臨席を頂き、教職員、学生、卒業生等多数の方々の参列の下に盛大かつ厳粛に執り行われた。式は学歌斉唱にはじまり、ご遺影に1分間の黙祷を捧げた。次いで、久保田晴寿学長より追悼の辞が述べられ、大村栄之助理事長、学生代表の中村 隆学友会委員長、教室出身者代表の勝田晋作様より弔辞が捧げられた。続いて同僚代表の田中千秋より追憶が語られ、追悼歌としてコーラス部によるフォーレ・レクイエム第1番、第7番が捧げられた。最後にベートーベン・葬送行進曲の流れの中、各代表の献花に続いて一般参列者の献花が行われ、追悼式は無事に終了した。

(追悼式準備委員長・教授 田中千秋)

叙位叙勲

平成4年11月17日に逝去された故小延鑑一教授に正六位勲四等瑞宝章が授与された。

追悼の辞

理事長 大村 栄之助

故大阪薬科大学教授小延鑑一先生の追悼式を営むにあたり謹んでご霊前に弔辞を捧げます。

先生は昭和28年3月、京都大学医学部薬学科を御卒業になられ、当時黎明期をむかえていた薬学の生化学のセンターであった鈴木友二先生の研究室に入れ、大学院博士課程を終えられました。

小延先生は生化学を深く学ぶにつれ、薬学と医学とのつながりに強い関心をもたれ、京都大学医学部附属病院中央検査室に移られて、先に学ばれた最新の生化学を駆使され、我が国の臨床生化学のバイオニアとして、多くの業績を残されました。

昭和46年4月、大阪薬科大学助教授に、ついで昭和48年4月、本学教授に就任されました。

本学においては、学生に生化学の講義、実習の教育に携わると共に昭和50年には学生部長、53年からは2年間、学生寮の寮監をも努められ、親しく学生の指導にあたられました。

一方、臨床生化学の研究は続けられ、研究の対象を患者にまで広げられ、医療の分野で、生きた薬学研究の在り方について、多くの実践を積み立派な業績を残されました。

思いおこせば、先生と私との関係は40年前にさかのぼります。先生が大学院の学生であったころ、最新の機器を習熟するために、私が当時いた武田薬品の研究所に数週間、勉強に来られました。その後、学会などでお会いすることもありましたが、私が理事長として本学に参るようになり、久し振りで旧交を暖めたかったです。

そのとき、先生は既に健康を害されておられました。

旧知の間でもあり親しく話も致しましたが、先生の健康状態から完全な休養を取る必要があると思ひ、学長にも相談するようにと、再度薦めましたが、先生の教育に対する熱意と責任感から頑張って現状をつづけられました。

この度、突然の訃報にせし、愕然といたしました。不治の病とは言いながら何か術がなかったのかと思ひ、悔やまれてなりません。

先生が築かれた臨床生化学の領域は、薬学の将来の発展の為には極めて重要な分野で、今ここで先生を失ったことは本学にとって大きな損失であり、残念でなりません。先生が残された多くの業績を継承し、より発展させていくことこそ残された者達の責務と思ひます。

先生、本当に長い間、有り難うございました。

どうぞ安らかにお休み下さい。

学校法人大阪薬科大学を代表してお別れの言葉とさせていただきます。

追悼の辞

学長 久保田 晴 寿

謹んで小延鑑一先生のみたまにお別れの言葉を申し上げます。

人生80年と言われる今日、先生が62歳の若さで、教育、研究に最後まで心をくだかれながら、忽然としてこの世を去られましたことは、ご遺族の皆様方は申すまでもなく、私たち大阪薬科大学に関係する者にとりましても、大きな衝撃であり深い悲しみであります。

先生は昭和28年3月、京都大学医学部薬学科をご卒業になり、同大学大学院博士課程に進まれ、京都大学医学部助手、講師を経て、昭和46年4月大阪薬科大学助教授として着任され、同昭和48年4月大阪薬科大学教授に任ぜられました。

先生が京都大学医学部附属病院診療施設中央検査部在任中に行われた数々の臨床化学分析の研究を通じて、我が国の臨床化学分析の開拓者として、多くの業績を残されました。さらに、医療の現場に直結するこの分野における経験を基に、その後薬学教育で益々重要となった臨床化学の分野において、先導的役割を果たされました。

大阪薬科大学に着任後も臨床化学の研究を続けられ、腎不全患者の社会復帰に不可欠である人工透析治療に



伴う種々の問題点を、臨床化学的観点から解決しようと患者志向の系統的研究計画を立てて、研究室をあげて取り組まれました。これら一連の研究により、人工透析患者の血液ろ過物の分析及び特性表示の系統的研究方法をはじめて確立されました。

先生は学生の教育、研究指導にあたっては、理想を高く掲げて厳しく教えられ、ときには愛情を持って指導されました。昭和50年に、学生の信任を得て学生部長に就任され、その豊富な体験をもとに2年間にわたり、学生の厚生補導に尽力されました。この間の実績をもとに、53年4月から2年間学生寮の寮監をつとめられました。

さきに入院を前にして、先生から、自ら認めた不治の病に対する闘志と研究教育の思い出や今後の薬大の発展を願うお気持ちをうかがったとき、先生の顔は明るく輝いていて、先生がこれほど早く永久の旅路につかれようとは夢にも思いませんでした。

最後まで教育研究に対する情熱の火を絶やさなかった先生の研究者、教育者としての旺盛な気力と強い責任感に深い敬意を表し、先生が目指された道を継承し、大阪薬科大学を発展させて行くよう努力してまいります。

小延先生、長い間、本当にありがとうございました。どうぞ安らかにお眠りください。永遠の別れにあたり、大阪薬科大学教職員一同を代表いたしまして、先生のお人柄を偲び、長い間の友情に感謝してお別れの言葉といたします。

追 憶

教授 田 中 千 秋

時ならぬ激しい雨風の中、君が旅立ってはや半年が過ぎた。光陰矢の如しを痛感するこの頃である。



小延教授ご遺族と田中教授

我々の世代は、正に昭和の激動の時代を生き抜いて来たのであった。満州事変勃発の頃に生を受け、日華事変、太平洋戦争と、十数年は戦争の影響をまろに受けた。教育制度は、目まぐるしく変わった。小学校が国民学校となり、中学校、新制高等学校、そして新制大学の新設と教育改革の荒波は、否応なしに我々を巻き込んだ。

昭和24年に京都大学医学部薬学科に入学して君を知った。君は実に勤勉精励であり、世話好きであり、議論好きであり、君の深い洞察力と情熱には敬服させられたものである。当時は未だ戦後の混乱期であり、大学の内外とも騒然としていた。加えて朝鮮戦争が勃発し、レッドパージの嵐が吹きすさび、昭和天皇が大学へ来られた時には、天皇帰れとシュプレヒコールする事件も起きた。昭和46年に奇しくも私が先に奉職していた本学に赴任して来て、生化学教室の基礎を固めた。当時は、戦後第2の学生運動高揚期がやっと終末を迎えた時であった。安保粉砕のスローガンの下に多くの大学が封鎖された。東大の安田講堂や京大の時計台の封鎖解除に機動隊が導入されたのもこの頃であった。

君の研究は、一貫して臨床化学、病態生化学の分野であった。医療の現場に目を向け、疾病の生化学的解明に情熱を捧げ、この領域の先駆者として立派な業績をあげていた。君の誇り高さ、厳格さ、頑固さは並はずれていた。不治の病に侵された後も、屈することなく、その情熱を教育と研究に燃やし続けた。

最後に君の研究室を訪ねたのは、10月13日であった。君は一心不乱に研究データをパソコンに打ち込んでいた。そして暫時、最近の研究成果と将来の展望を熱く話していた。17日の講義を終え、21日夜緊急入院し、1ヶ月足らずで不帰の人となった。何故にかくもはかなく逝ってしまったのか。実に痛恨に堪えない。

今はただ、友よ安らかに眠れと祈るばかりである。君のご冥福を祈る。

小延鑑一先生を偲んで

第2生化学教室 助手 山本 英倫子

小延鑑一先生の突然の死に接し、哀悼の意を表し、ここに追悼の辞を述べさせていただきます。

先生は、私が学生時代バドミントン部に所属していました時顧問の先生でもありましたので、1回生の頃からお世話になっておりました。先生は薬連の時、どんなに遠方でも欠かさず応援に来てくださり、部員達の試合を写真に収めてくださいました。そんな先生のお人柄と、そして透析患者の血液濾過液を用いた研究に惹かれ、特研究生として先生の研究室に入りました。以後、現在までの6年間、HPLCによる血液濾過液中の中分子量物質の分析や、肝酵素に対するそれらの影響等の研究をご指導くださいました。

学生に対しても生化学の講義だけでなく病院検査室を見学する機会を設けるなど、とても熱心に教育に当たっておられました。また常日頃から「学生にとって先生は親と子ほど年が離れているので言いにくい事もあるだろうから、君達助手が良いアドバイスをしてあげるように」といわれ、温かい心で学生に接しておられました。

私が副手のころ先生はお元気でおられましたので、私達や特研究生に京都の名所を案内して下さり、多くの写真を撮ってくださいました。先生は写真を撮る事がとてもお好きで教授室には卒業生の方々のアルバムがぎっしり並んでいました。

ところが2年程前から咳がひどく、その上耳も聞こえにくくなりました。それでも質問に来る学生に対し補聴器を使いながら丁寧に答えられ、学生が帰った後咳込まれてとても苦しうにされていました。昨年春には検査のため入院され、それ以来学校に来られた直後や講義の後など酸素を吸入されていました。講義はより理解し易くなるようにOHPを使われ、また入院される直前まで平成5年度のテキストの改定や研究データの整理をされていました。

私は、このような先生の教育や研究に対する情熱を少しでも見習い、医療の発展のためにがんばりたいと思います。

先生、ご指導ありがとうございました。安らかに眠り下さい。



平成5年度学校法人予算について

事務局長 河野光次

去る平成5年3月23日に開催された理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の平成5年度予算が審議のうえ承認されたので、消費収支予算書総括表を掲載し、その概要を説明することとしたい。

(学生納付金)

今年度の学費改定にともない、前年度比1億3000万円増の17億5160万円を計上した。

(補助金)

經常費補助金は、近年の減少傾向を反映し、前年度比3000万円減の2億7000万円を計上した。また、施設設備費補助金は、平成5年度申請予定3件(質量分析計、コンピューター、自動細胞解析装置)の購入費総額1億100万円に対する補助金として5260万円を計上した。

(帰属収入合計)

平成5年度における帰属収入の合計は、前年度比1億1475万円増の22億1005万円となっている。

(消費支出)

平成5年度における消費支出合計は、前年度比8956万円増の22億3230万円となっている。

(基本金組入額)

平成5年度における基本金組入額には、施設関係1億円(高槻校地買増他)および設備関係2億540万円(文部省助成機器1億100万円、教育研究機器6200万円、図書4000万円他)を計上した。

以上の結果、平成5年度は、3億5665万円の大規模な支出超過となるが、基本金組入れを除いても2225万円の支出超過であり、今後より一層むだな経費の節減と効率的支出に努力する必要がある。

平成5年度消費収支予算書総括表

{平成5年4月1日から
平成6年3月31日まで}

消費収入の部 (単位円)				消費支出の部 (単位円)			
科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減
学生生徒等納付金	1,751,600,000	1,621,600,000	130,000,000	人 件 費	1,283,590,000	1,267,000,000	16,590,000
手 数 料	72,900,000	77,000,000	△ 4,100,000	教育研究経費	545,340,000	501,670,000	43,670,000
補 助 金	324,400,000	326,200,000	△ 1,800,000	管 理 経 費	142,270,000	71,750,000	70,520,000
資産運用収入	30,000,000	30,000,000	0	借入金等利息	231,100,000	272,320,000	△ 41,220,000
事業収入	6,450,000	8,700,000	△ 2,250,000	[予 備 費]	30,000,000	30,000,000	0
雑 収 入	24,700,000	31,800,000	△ 7,100,000	消費支出の部合計	2,232,300,000	2,142,740,000	89,560,000
帰属収入合計	2,210,050,000	2,095,300,000	114,750,000	当年度消費支出超過額	356,650,000	1,561,720,000	
基本金組入額合計	△ 334,400,000	△ 1,514,280,000	1,179,880,000	前年度繰越消費支出超過額	1,832,050,000	670,790,000	
消費収入の部合計	1,875,650,000	581,020,000	1,294,630,000	翌年度繰越消費支出超過額	2,188,700,000	2,232,510,000	



昔日のこと（退職に際して）

曾 根 節 子

平成5年3月31日に、46年間のつとめを終え、過ぎ去った日々を振り返る時、大勢の人との繋り、種々な出来事が思い起こされます。

戦後、学制改革があり、本学も幾多の苦難を乗り越えて新制大学となる事が出来、昭和25年4月に開学のはこびとなりました。この時、母校の大学昇格に熱い思いを寄せて奔走し、努力し、開学を喜び合って居た私達助手を待ち受けて居たのは、“専門学校出”との冷やかな、評価でした。開学と同時に、全教員職員に交付されました“大阪薬科大学〇〇、帝国薬学専門学校〇〇兼任を命ず”の辞令は、私達助手には下さいませんでした。そして、日を経ても何らの説明もありませんでした。当時、大学の助手は男性1名のみでありましたので、大学生関係の仕事は、私達にも課せられて居りました。先生方は勿論の事、新しく就任された学長先生も、私達の問いに何も回答して下さらない状態でした。私達は自分達の事は自分達でと、相談し合い、交渉を進めた結果、一年後の26年4月に、全員に“大学副手”の辞令が交付され、26年10月には、昭和22年3月以前の卒業生に対して、同27年4月には残りの全員に“大学助手”の辞令が交付されました。法人組織が変わった為に起こった混乱でした。

当時、私達は与えられた勤務に励むかわら自分達なりの楽しみも持って居りました。その頃、苺は5～6月に限られた季節の果物でしたので、苺のショートケーキは、この時期だけしか店頭に出ず、取扱っている店も少なく、私達にとっては、高価な品物でした。5月のお給料を頂くと、早速お金を出し合って、しかるべきお店の“目的のケーキ”を買って来て、皆んな集って戴いた時の顔は、とても幸せ一杯と云う表情であった事を思い出します。助手達の集りを“陸会”と名付けて、日常の交流があった事も、何かの折りには、まとまり易かったのではないのでしょうか。当時のお仲間には今も懐かしく温かいものを感じます。

大学開学後、法人に関する問題があって、大学も暫く落着きませんでした。昭和27年4月に、二代目学長として、柿沼三郎先生がご就任になられ、29年3月に大学一期生が巣立ちました。私も、一時教室の変更

等がありましたが、昭和34年頃からようやく、自分自身の仕事が出来事になりました。しかしこの2～3年前くらいからは、仕事以外の事で、大変つらい苦しい時期でもありました。昭和37年に、学長柿沼先生の御配慮で、教室責任者としての席に着かせて頂きました。担当教科も一科目増し、それなりに忙しくなりましたが、仕事もすすみ出し、ながい間悩まされて居りました暇の心因性皮膚炎も起こらなくなり、充実した日々を送る事が出来ました。柿沼先生は、私の報文が、薬学雑誌に掲載され始めた事をお喜び下さって程なく、40年7月に急逝なさいました。訴える術もなく、我慢、我慢で過ごさざるを得なかった私が、この様な好機に恵まれたのは、昭和27年御着任以来、日常たえず一人一人の人間を、又個々の事柄をよく見て居られ、そして、御自分のお考えを制度上の障害なしに実行に移される事が出来られたからではなかったかと思えます。日頃気さくに私達の仲間にお入り下さいました事などを懐かしく思い出します。

大学の運営も軌道に乗り、先生方の人数も増すにつれ、学内の空気も次第に変わって参りました。定年制が施行され、それまで無かった教職員の組合も結成され、昭和41年2月に、第1回の紛争が起こり、後数年を経ずして第2回の紛争が起こりました。2回目は学内だけでなく、卒業生の一部も加わっての事で、当時、紛争指定校とされた事が、テレビでも放映されるなど残念な事でした。その後、学長決定には、現行の選挙制がとられ、就任期間は4～6年となりました。大学組織の中核の、教務・学生の2部長をはじめ、部長、委員長等教員が担当する役職は、殆ど教職員の選挙によって決まる事となりました。そして学内の空気はますます変わって参りました。

今大学は、高槻市への移転が決定されて居ります。建造物や設備の充実も大切ですが、大学を支える組織、規程等の充実と、それを運用される人材の育成が最重要ではないかと思えます。現在その責にあられる方々に御期待申し上げたいと存じます。

御在職の皆様方のご健祥を心よりお祈り申し上げます。

藤井司郎経理課長ご退職

藤井司郎経理課長は、昭和52年に経理課長として本学事務局に御就任になり、以来17年間にわたり経理事務に携わってこられました。平成5年3月31日をもって定年退職されました。

藤井課長は、御就任以来積極的に本学経理事務の近代化に取り組まれ、会計処理・学費収納・給与計算等にコンピューターを導入するなど事務の合理化に多大の貢献をされました。

3月24日には、曾根助教授との合同の退職記念祝賀会が本学において開催され、藤井課長の永年の功績を称えるとともに今後のますますの御健勝と御活躍を祈

念しました。

(記 経理課係長 秋月延夫)



消防訓練を終えて

防火管理者
教授 森本 史郎



本学の平成4年度消防訓練は、沼田自衛消防隊長の指揮の下に平成4年12月2日に実施された。

当日午前10時、東研究棟2階の研究室で火災発生(発煙筒)を発見したことに始まった。火災発生を覚知した者は、大声で周囲の者に知らせ、非常ベルを鳴らした。出火した現場周辺者は電話により連絡本部(庶務課)に通報するとともに初期消火を開始した。連絡班は直ちに学内放送により、火災発生場所の通報、自衛消防班の出動要請および避難準備態勢の指示を行い、連絡班員の一部は出火場所に急行し、連絡本部と交信した。自衛消防隊の各班(消火、連絡、警備、非難誘導、救護)員は所定の場所に急行し、自衛消防実施マニュアル通りの任務に就いた。受講中の学部学生は、避難誘導班長の指示により学内放送された避難方法に従ってグラウンドに避難した。火災発生時の通報を受けて、災害対策本部を応接室に設置し、本部長および本部員は自衛防火活動の全体状況を把握し、訓練を監視した。



午前10時15分、学内放送により鎮火が通報され、一連の自衛消防訓練は終了した。

続いて、教職員、大学院生、学内配属の特別実習生全員はグラウンドに集合し、消火器および屋外消火栓による消火訓練を行った。

上記のように、平成4年度の消防訓練は無事終了したが、今後は次の点を反省し、改善しなければならない。

1. 学内放送の内容を明確に聞きとれないところがあった。
2. ヘルメット、メガホン、防煙マスク等を十分に備える必要がある。
3. 受講学生は中央の階段、出口から避難する者が多く、東側、西側の階段、出口を利用する者が少なかった。各教室に掲示されてある避難経路を学生諸君に熟知してもらうことが重要である。
4. 配布した「自衛消防実施マニュアル」および「救急処置法」は、各室の見やすい場所に設置して教職員および学生が常時利用できるようにする。

生物学教室

助教授 松村 瑛子

長年御指導を頂いた川野タツ先生（現：名誉教授）が定年退職された後、新しく生物学教室として出発し、同時に、生物学Ⅰの講義と生物学実習を担当することになって早や5年が経過しました。講義・実習では、始めて接する一年次生に時代の移りかわりを感じると共に、改めて大学での教育のあり方を考えさせられる日々でした。その間、教室は、その年その年の特別実習生、長い間2人3脚で教育研究に努力して下さった山本栄子助手、山本助手の退職後は現在の坂口実助手、そして私だけのこじんまりとした研究室としてやってまいりました。毎年の特別実習生は明るく仲良くのびのびと、しかし実験には真剣に取り組む学生ばかりで、今ではそれが生物学教室のカラーとなりました。またこの間、教室出身で他の研究室あるいは他大学の大学院生となった人達や卒業して社会人となった人達が屢々研究室を訪れてくれまして、それが特別実習生には何よりの励ましと刺激になり、研究室の良い雰囲気づくりに貢献してくれたと大変喜んでます。そして、今年度から微生物学講座の大学院前期課程に加えて頂き、早速、大野裕史君を大学院生第1号として迎えることになりました。今年度の特別実習生にも大学院進学希望者が多く、重い責任を感じると共に、今の良い雰囲気を失うことなく、さらに充実した研究

室にしてゆきたいと願っています。

研究内容は、以前からのテーマである「新しい微生物酵素の発見とその応用に関する研究」に加えて、新しく「微生物の産生する免疫調節物質に関する研究」と「老化にともなう脳内酵素活性の変動と神経細胞の分化・生存に影響を及ぼす諸因子の研究」を取り上げこれらも漸く軌道に乗り始めたところです。微生物はヒトの肉眼では見えない顕微鏡的な小さな生物であり乍ら、土壌中は勿論、海洋・動植物の組織内など到る所に生息し、地球上の物質およびエネルギー循環に大きな役割を果たしている非常に有能な生物です。私達の生活は、昔よりこの微生物から多大な恩恵を蒙っていますが、今また改めて、発酵・醸造食品の他に、難病の治療・環境の浄化など現代の私達をとりまく諸問題の解決に微生物の持つ有能な機能が期待されています。また、長寿化社会の到来による老年痴呆やアルツハイマー病などの問題から、今までブラックボックスと云われた脳の研究は近年目覚ましい発展を遂げています。薬学を学ぶ私達もその進歩について理解すると共に問題点を良く認識しておく必要があると考えています。というわけで、些か間口を広げすぎた感がありますが、基本とする考え方は同じであり実験の内容は各々に深い関係があります。私自身これがライフワークと云える程のテーマを持っているわけではなく、むしろ学生が興味を持って積極的に取り組みたいと考えている内容があれば、可能な範囲でテーマとして取り上げ、一緒に学び乍ら、自分で考え・計画し・実施することが出来る学生に育ってくれば良いと考えています。その過程でしっかりと自分に自信をつけて大学を巣立って欲しい、それが私の願いです。

下の写真は丁度今春卒業した特別実習生と、今年度の大学院生、特別実習生が共に在室している時期の撮影だったので御覧のとおり大変賑やかな写真となりました。



後列：平成5年度特別実習生・院生 左から清水，岸田，加藤，勝部，山下，中島，村山，大野(M1)，中村
前列：平成4年度特別実習生 左から佐藤，森，横田，矢部，(坂口助手，松村助教授)，尾崎，岡崎，橋，辻

教務課だより

■総合科目「人間と環境」の開講について

1年次生科目として、平成5年度より総合科目A・B「人間と環境」(各2単位必修)が開講されている。

総合科目は、従来の一般教育(人文・社会科学)と専門教育を有機的に関連づけ、年間を通じて13名もの各分野の専門教員が下記の章ごとに分担するユニークな科目であると同時に、幅広い視点からの調和のとれた総合的な物の見方や考え方の養成をめざす科目でもある。

ライフサイエンスのパイオニア、「薬学」への導入講義として、今後の展開に期待したい。

○オリエンテーション(大学の理念と総合科目開講の意義)

○序論(1)今、なぜ環境か(2)「環境」の諸相(3)探求の視座

○第1章：人間と倫理

(1)人間形成における環境の問題(2)生命と倫理
(3)環境倫理学序説

○第2章：生物と環境—生命科学入門—

(1)自然から学ぶ(2)身体と環境
インテルメツォ：文化と言語

○第3章：病気と環境

(1)総論(2)各論

○第4章：薬害と環境汚染—化学物質と生体—

(1)歴史的背景および具体的事象(2)環境汚染
(3)防止の手立て

○第5章：開発と環境—社会科学としての環境問題—

(1)地球環境問題とは何か?(2)環境社会思想論の系譜(3)「市場の失敗」—市場経済制度の光と影
(4)「政府の失敗」—集権型開発の課題

■学科履修規程の一部改正について(平成4年12月7日)

(旧)第9条(特別再試験)：4年次後期定期試験終了時において、卒業に必要な履修授業科目のうち、単位未修得科目が13科目以下(1～2年次生)・5科目以下(3～4年次生)の者に対して、特別再試験を行う。《2段階卒業査定方式の第1次査定を示す》

(新)第9条(特別再試験)：4年次後期定期試験(薬学総合演習試験は除く)終了時において、単位未修得科目について、特別再試験を行う。《第

1次査定を廃止し、卒業査定は1回のみ実施することとし、未修得科目をもつ者はその個数に関係なく、すべて特別再試験を受験することができる》

(記 教務課長 高橋正好)

平成5年度大学院博士前期(修士)課程入学試験結果

区分		志願者	合格者	入学者
1次募集	男	28	21	21
	女	1	1	1
2次募集	男	7	4	4
	女			
外国人留学生	男			
	女	1	1	1
合計	男	35	25	25
	女	2	2	2
	計	37	27	27

平成5年度一般入学試験結果

	志願者	受験者	合格者	入学者
男	920	850	226	77
女	1,401	1,321	452	137
計	2,321	2,171	678	214

第78回 薬剤師国家試験結果

試験期日：平成5年4月2日(金)～3日(土)

合格発表：平成5年4月27日(火)

区分	受験者	合格者	合格率
新卒	299	237	79.26
	6,906	6,162	89.23
その他	101	65	64.36
	2,358	1,421	60.26
総数	400	302	75.50
	9,264	7,583	81.85

新卒とは平成5年3月19日卒業者である。

各区分の上段は本学、下段は私立薬系大学(29)のデータである。

学生課だより

◎単車を利用する人へ

昨年、公道において本学の学生による単車の事故が数件おきました。前方不注意などによる道路交通法違反が原因であるときいています。

学内においても、交通ルールを守らない人がみかけられます。構内の走行速度が「徐行」に制限されているにもかかわらず猛スピードの人、又2人乗り、ノーヘルの人などです。

幸い学内においての事故の報告はありませんが、無謀な運転が事故につながることは容易に想像できます。今一度事故が起きたときのことを想像して下さい。加害者となっても被害者となっても悲劇ではないでしょうか。単車を利用する人は、学内外を問わず交通安全に関する各種法規を遵守して安全走行を心がけて下さい。

又、学内での駐車についても、自転車置場や体育館、クラブハウスの周辺に止めているのが目につきます。クラブハウスの南（グラウンド西南端角）が専用駐車場となっていますので、そこ以外には絶対駐車しないようにして下さい。

尚、駐車場までの経路についても、正門から左折し、図書館の前を通り、グラウンド南端の垣根沿いに進行、単車駐車場に至る。退出する場合はこの経路を逆行する。と定めていますので遵守するようにして下さい。

◎人事異動

平成5年4月1日付で、庶務課の藤田純生係長が学生課に就任しました。主として学生諸君の厚生補導に関する全般について担当しますのでよろしく申し上げます。

これに伴い、神田吉秋係長は図書館、古本浩三主任は庶務課に各々異動しましたのでお知らせします。

又、本年3月に死去された福島笑子保健婦に代り、辻悦子保健婦が就任しました。保健室に常駐していますので、保健に関することはいつでも相談して下さい。

◎休日の談話室の開放について

休みの日に自習室（33教室）で勉強にはげみたいので、「休日に自習室の開放を」という声がありました。大学は本試験前に限り学生会館の談話室を開放することを許可しましたので大いに利用して下さい。

尚、使用するにあたり、下記のことには留意して下さい。

1. 開放する期間および時間は本試験の1ヵ月前から本試験終了までの午前10時から午後4時までとする。
2. 施設使用願いを事前に提出すること。
3. 使用する前と使用した後は必ず守衛室に届け出ること。
4. 空調機のスイッチの入、切、照明の点灯や消灯等の自主管理を行うこと。

（記 学生課長 井頭八郎）

平成5年度 学友会執行委員会

執行委員長	伊原 崇 昭③	(硬式野球部)
副委員長	野村 卓 也③	(サッカー部)
副委員長	川勝 達 也③	(G. A P O)
総務局長	上田 充 利③	(旅行写真部)
副局長	原 忠 興③	(柔道部)
書記	笹木 真由美③	(上方落語研究部)
書記	寺 柚 典子③	(弓道部)
文化局長	坂根 祥 宏③	(フォークソング部)
副局長	中谷 啓 二③	(バレーボール部)
厚生局長	鶴岡 佐枝子③	(バドミントン部)
副局長	内田 有 美③	(軽音楽部)
広報局長	緒方 美保子③	(箏曲部)
副局長	岡崎 朱 美③	(硬式野球部)
体育局長	水野 克 敏③	(陸上部)
副局長	中尾 宗 彦②	(卓球部)
渉外局長	角 倉 竹 則③	(ハンドボール部)
副局長	秋 本 学③	(ハンドボール部)

図書館だより

1. 図書館の利用について

開館時間

[通常] [講義及び試験のないとき]

○平日：9時～6時 9時～5時

○土曜日：9時～4時30分 9時～1時

※長期休暇中の開館時間や、臨時に休館する場合は、その都度掲示します。

2. サービス

- 閲覧
- 貸出し
- 文献の相互貸借（図書館のファックスで大学や企業へ依頼，通常1週間程度で入手できる）。
- オンライン情報サービス

3. 利用上の注意

- 図書館に入るときは、オーバー、コート類およびカバン、袋物類は備え付けのロッカーに入れて下さい。このロッカーは「入館時限定使用」です。キーは必ず元に戻すことを守って下さい。
 - 館内での飲食は禁止します。
 - 図書館資料（図書、AV資料など）は利用者全体の共有財産です。汚損、無断持出しを厳禁します。
 - 館内は禁煙です。喫煙は玄関の所定の位置に限ります。
- その他詳細については、別冊の「図書館利用案内」をよく読んで下さい。

4. 最近購入した主な資料

〔図書〕

- | | |
|-------------------|-------------|
| サイエンスエッセックス | アインシュタインの夢 |
| 自然界における左と右 | 海洋生理活性物質研究法 |
| 創造は天才だけのものか | ロマンチックな科学者 |
| がんはなぜできるか | カルシウムと細胞情報 |
| 化学実験虎の巻 | 分子生物学辞典 |
| 有害物質データブック | カルシウムと情報伝達系 |
| 嫌われ元素は働き者 | 活性酸素測定マニュアル |
| 試薬の調整法 | がん遺伝子に挑む |
| 有機化合物分離法 | 生きている心臓 |
| NMRハンドブック | |
| マイコンアニメーションで学ぶ化学 | |
| 大学院物理化学（上，中，下） | |
| 分取クロマトグラフィーの実際 | |
| 化学者たちのネームゲーム | |
| 合成化学者のための実験有機金属化学 | |
| マリンバイオテクノロジー | |
| サイレントスプリング再訪 | |
| インターロイキンネットワーク | |

〔AV資料〕

- | | |
|--------------|-----------|
| 昭和の記録 | 蔓延する性病エイズ |
| 組換えDNA実験 | 臨床血液検査 |
| 吸光光度法 | 免疫血清検査 |
| 生命の進化 | 自然界のつりあい |
| 化学反応のしくみ | 医薬品の誕生 |
| 有機化学の実験技術 | |
| 液体クロマトグラフ分析法 | |
| 蔓延するクラジミア感染症 | |

（記 図書課長 村上 昭）

実験動物慰霊祭

平成5年2月13日(土)午後0時30分より、34教室において教員、学生多数参加のもとに執り行われた。これまで学外で行われていたが、今後は学内で、大学の行事として行うことになった。



学位授与

博士(薬学)(平成5年1月27日付)

論博第7号 内田 武

新規降圧利尿薬トラセミドの利尿および降圧作用に関する薬理学的研究

修士(薬学)(平成5年3月19日付)

修第154号 薬化学 青山 健

1,3-双極付加環化反応を経るC₁単位導入反応を用いたアリルシランの立体選択的合成に関する研究

修第155号 薬化学 林 直宏

Dibenzyl- γ -butyrolactone lignan の全合成の試み

修第156号 薬化学 村橋 豊

イソギンチャク由来の真菌の産生する細胞毒性物質に関する研究

修第157号 生薬学 良川 美智

ジンチョウゲ *Daphne odora* THUNB. のピフラボノイドに関する研究

修第158号 薬品製造学 竹村 茂隆

中環状チオノカーボネートの [3,3] シグマトロピー転位-環拡大反応に関する研究

— Yellow Scale Pheromone の立体選択的合成—

修第159号 薬品製造学 丹野 寛勝

C-Nor-4,6-Secocamptothecin およびその関連化合物の合成研究

修第160号 衛生化学 隅谷 俊紀

ウサギ血小板におけるアラキドン酸代謝に対する脂質関連物質の影響に関する研究

修第161号 衛生化学 中島 正

ウサギ腎髄質ミクロソームにおけるプロスタグランジン合成に対する活性脂肪酸の影響に関する研究

修第162号 生化学 保理江 智

ガラガラヘビ (*Crotalus adamanteus*) 毒由来神経成長因子の精製とアミノ酸配列の決定

修第163号 微生物学 北谷 典丈

マウスMHC表現欠損変異株細胞を用いたインフルエンザウイルス抗原提示機構の研究 I.

修第164号 微生物学 折越 英介

海洋細菌 *Alteromonas* sp. 0-7株のキチナーゼ遺伝子のクローニングおよびその塩基配列の決定

修第165号 薬剤学 丸山 均

内因性生理活性物質インスリンの体内動態と薬理効果の関連性

修第166号 薬剤学 梶原 力

自然発症高血圧ラット (SHR) における Captopril の生体内動態と薬理効果の薬動的解析

修第167号 薬理学 梅川 俊義

培養血管内皮細胞におけるエンドセリン-1産生におよぼす血小板の影響に関する研究

修第168号 薬理学 塚原 八重子

フォスフォラミドン感受性エンドセリン交換酵素によるビッグエンドセリン-3からエンドセリン-3への変換に関する研究

修第169号 薬理学 朝倉 賢治

ラット虚血腎組織におけるインビトロ酸素化障害

修第170号 薬品分析学 梶栗 隆司

時間分解蛍光免疫測定法による生体試料中のデスマシンの高感度分析に関する研究

修第171号 薬品分析学 三木 敦代

フッ化物イオンの超微量分析システムの開発とその応用に関する研究

修第172号 薬品物理化学 森野 重信

蛋白質工学の手法によるヒト・蛋白質合成開始因子4EのmRNA キャップ構造認識機構の解明

修第173号 薬品物理化学 藤川 昭彦

新規抗生物質 Aureobasidin E の ¹H-NMR による立体構造解析

修第174号 放射薬品学 杉本 淳

ヨードピリジンカルボキサミド誘導体の SPECT 用脳内 MAO-B イメージング剤としての可能性について

修第175号 放射薬品学 前田 茂雄

食品中のトリチウムの測定に関する基礎研究

修第176号 放射薬品学 遠藤 朗

電磁波を用いた医薬品原料の微生物汚染対策に関する基礎研究

—生薬原料「牛黄」の汚染菌数制御法としての放射線法と高周波法の比較—

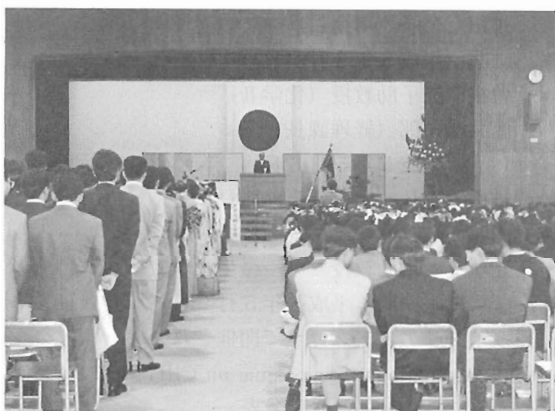
学士(薬学)(平成5年3月19日付)

薬第3084号~薬第3237号 薬学科 154名

製第2404号~製第2548号 製薬学科 145名

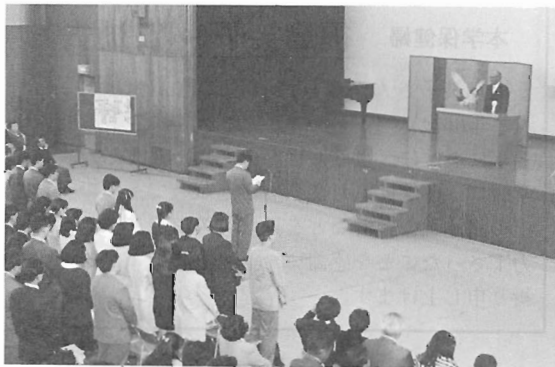
卒業式

平成5年3月19日(金)、第40回学部卒業式並びに第16回大学院終了式(学部299名、大学院23名)が来賓、父兄多数参列のもとに挙行された。



入学式

平成5年4月8日(木)、平成5年度学部並びに大学院入学式(学部292名、大学院博士前期課程27名)が来賓、父兄多数参加のもとに挙行された。



平成5年度 前期行事予定

- 4月2日(金) 第78回薬剤師国家試験(学説・実地)
- 4月3日(土)
- 4月8日(木) 入学式(学部・大学院)
- 4月9日(金) 新入生ガイダンス
- 4月10日(土) 新入生健康診断・アドバイザー面談
- 4月12日(月) 前期授業開始
就職ガイダンス(4年次生)
- 4月15日(木) レントゲン検診(新入生以外の学生・教職員の女子)
- 4月16日(金) レントゲン検診(新入生以外の学生・教職員の男子)
- 4月17日(土) 選択科目履修届提出締切(教務課)
- 4月26日(月) 新入生奨学金ガイダンス
- 5月10日(月) 創立記念日〔5月9日(日)の振替休日(休業)〕
- 5月15日(土) 新入生歓迎会(五月祭)
- 5月18日(火) 健康診断(新入生以外の女子)
- 5月19日(水) 健康診断(新入生以外の男子)
- 6月7日(月) 選択科目受験届(4年次生)提出締切(教務課)
- 6月12日(土) 学友会ソフトボール大会
- 6月28日(月) 選択科目受験届(1~3年次生)提出締切(教務課)
- 7月10日(土) 前期授業終了(4年次生)
- 7月12日(月) 前期定期試験(4年次生・4年次科目)
- 7月21日(水)
- 7月22日(木) 試験欠席届(4年次生・4年次科目)提出締切(教務課)
前期授業終了(1~3年次生)
- 7月23日(金) 夏季休業
- 9月12日(日)
- 9月1日(水) 4年次生前期定期試験(1~3年次未修得科目)
- 9月10日(金) 得科目)
- 9月11日(土) 試験欠席届(4年次生・1~3年次未修得科目)提出締切(教務課)
- 9月13日(月) 後期授業開始(4年次生)
- 9月13日(月) 前期定期試験(1~3年次生)
- 9月30日(木)
- 9月20日(月) 前期追試験(4年次生)
- 9月27日(月)

人 事 異 動

併 任 (平成5年4月1日)

教務部長 千熊 正彦 (教授)
研究委員長 玄番 宗一 (教授)
経理課長 河野 光次 (事務局長)
施設課長 森本 武司 (事務局次長)

昇 任 (平成5年4月1日)

助 教 授 黒田 和道 (第二微生物学教室)
助 教 授 大桃 善朗 (第一放射薬品学教室)
助 手 山沖 留美 (第二放射薬品学教室)
事務局次長 森本 武司 (施設課長)
係 長 古本 浩三 (庶務課)
主 任 澤田あつ子 (学生課)

採 用 (平成5年4月1日)

助 手 当麻 成人 (保健体育)
副 手 芝野真喜雄 (第一生薬学教室)
保 健 婦 辻 悦子 (学生課)
(平成5年4月20日)
事務職員 高山 和美 (経理課)

配 置 換 (平成5年4月1日)

吉村由香里 (第一薬剤学教室・化学Ⅱより)
福永 治久 (教務課係長・施設課係長より)
藤田 純生 (学生課係長・庶務課係長より)
松尾 真充 (施設課係長・教務課係長より)

嘱 託 (平成5年4月1日)

井上 正敏 (教授)
森下 利明 (教授)
神田 吉秋 (図書課事務職員)
山田 敏子 (経理課事務職員)

川西 茂 (守衛)

退 任 (平成5年3月31日)

田中 千秋教授・教務部長 (任期満了につき)

石田 寿昌教授・研究委員長 (任期満了につき)

定年退職 (平成5年3月31日)

森下 利明教授 (倫理学)

川西 茂 (守衛)

退 職 (平成5年2月28日)

福井美有紀助手 (第一薬剤学教室)

(平成5年3月13日)

宮原 直子助手 (第一放射薬品学教室)

(平成5年3月19日)

近藤由貴代助手 (第二薬化学教室)

(平成5年3月31日)

阿部 真弓助手 (第一生薬学教室)

山本英倫子助手 (第二生化学教室)

河鱈 一彦助手 (保健体育)

(平成5年5月6日)

神田 公子 (用務員)

解 嘱 (平成5年3月31日)

曾根 節子助教授 (化学Ⅱ)

藤井 司郎 (経理課長)

(平成5年5月6日)

神田 吉秋 (図書課事務職員)

海外出張

辻坊 裕助教授 (第一微生物学教室)

<出張期間:平成5年5月9日~5月14日>

イタリア・アンコナで開催された

International Symposium on CHITIN ENZYMO-
LOGY における研究発表

本学教授 小澤 貢先生ご逝去

第2生薬学教授 小澤 貢先生には、かねてより病气療養中のところ、5月31日、大阪市阿倍野区の病院でご逝去されました(享年56歳)。

先生のご遺徳を偲び謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

本学保健婦 福島笑子さんご逝去

福島笑子さんが3月12日にご逝去されました(享年66歳)。保健室において、或は健康診断のときになどに、よくお世話をいただきました。又学報には「保健室だより」を連載して、健康管理上の諸注意や統計などを通じての啓発に永年ご尽力下さったことを感謝いたし、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

平成5年度
各部・委員会・委員一覧

◎は各部署の長
(平成5年5月1日現在)

教務部

加藤 義春 (助教授)
松村 靖夫 (助教授)
土井 光暢 (講師)

◎千熊 正彦 (教授)
馬場きみ江 (助教授)
西野 隆雄 (講師)

学生部

望月伸三郎 (教授)
濱中久美子 (助教授)
辻坊 裕 (助教授)

◎稲森 善彦 (教授)
有本 正生 (助教授)
松村 靖夫 (助教授)

就職部

中元 安雄 (助教授)

◎栗原 拓史 (教授)
木村捷二郎 (助教授)

図書館

千熊 正彦 (教授)
辻坊 裕 (助教授)

◎沼田 敦 (教授)
加藤 義春 (助教授)

学生寮

望月伸三郎 (教授)
馬場きみ江 (助教授)

◎坂田 勝治 (教授)
稲森 善彦 (教授)
藤本 陽子 (助教授)

薬用植物園

草野源次郎 (教授)
三野 芳紀 (助教授)

◎小澤 貢 (教授)
馬場きみ江 (助教授)

実験動物センター

実験動物センター運営委員会

藤田 直 (教授)
保坂 康弘 (教授)
松村 靖夫 (助教授)
西野 隆雄 (講師)

◎掛見 正郎 (教授)
池田 潔 (教授)
玄番 宗一 (教授)
安田 正秀 (講師)

総務委員会

森本 史郎 (教授)
森 逸男 (教授)
小澤 貢 (教授)
稲森 善彦 (教授)
河野 光次 (事務局長)

◎久保田晴寿 (学長)
田中 千秋 (教授)
沼田 敦 (教授)
栗原 拓史 (教授)
千熊 正彦 (教授)

施設委員会

森本 史郎 (教授)
森 逸男 (教授)
小澤 貢 (教授)
池田 潔 (教授)
河野 光次 (事務局長)

◎久保田晴寿 (学長)
田中 千秋 (教授)
沼田 敦 (教授)
栗原 拓史 (教授)
石田 寿昌 (教授)

研究委員会

松村 瑛子 (助教授)

◎玄番 宗一 (教授)
藤田 芳一 (助教授)

広報委員会

濱中久美子 (助教授)
伊藤 美雄 (庶務課長)

◎沼田 敦 (教授)
西野 隆雄 (講師)
村上 昭 (図書課長
資料室長)

公開教育講座委員会

森本 史郎 (教授)
中元 安雄 (助教授)
西野 隆雄 (講師)

◎掛見 正郎 (教授)
草野源次郎 (教授)
森本 一洋 (助教授)

R I施設運営委員会

森本 史郎 (教授)
保坂 康弘 (教授)
稲森 善彦 (教授)
千熊 正彦 (教授)
掛見 正郎 (教授)

◎田中 千秋 (教授)
沼田 敦 (教授)
玄番 宗一 (教授)
石田 寿昌 (教授)
草野源次郎 (教授)
木村捷二郎 (助教授)

排水処理委員会

石田 寿昌 (教授)
土井 光暢 (講師)

◎草野源次郎 (教授)
三野 芳紀 (助教授)

動物実験委員会

藤田 直 (教授)
玄番 宗一 (教授)
松村 瑛子 (助教授)
安田 正秀 (講師)
伊藤 美雄 (庶務課長)

◎池田 潔 (教授)
保坂 康弘 (教授)
掛見 正郎 (教授)
松村 靖夫 (助教授)
西野 隆雄 (講師)

組換えDNA実験安全委員会

森本 史郎 (教授)
森下 利明 (教授)
稲森 善彦 (教授)
黒田 和道 (講師)
伊藤 美雄 (庶務課長)

◎保坂 康弘 (教授)
田中 千秋 (教授)
池田 潔 (教授)
石田 寿昌 (教授)
細川 康 (学外)

教育検討委員会

田中 千秋 (教授)
小澤 貢 (教授)
栗原 拓史 (教授)
石田 寿昌 (教授)

◎森本 史郎 (教授)
沼田 敦 (教授)
藤田 直 (教授)
池田 潔 (教授)
坂田 勝治 (教授)

医療薬学実習担当委員会

千熊 正彦 (教授)
西野 隆雄 (講師)

◎掛見 正郎 (教授)
中元 安雄 (助教授)
土井 光暢 (講師)

バイオハザード予防委員会

田中 千秋 (教授)
保坂 康弘 (教授)
安田 正秀 (講師)

◎稲森 善彦 (教授)
池田 潔 (教授)
松村 瑛子 (助教授)

防火対策委員会

森本 史郎 (教授)
小澤 貢 (教授)
稲森 善彦 (教授)
河野 光次 (事務局長)
伊藤 美雄 (庶務課長)
井頭 八郎 (学生課長)

◎久保田晴寿 (学長)
沼田 敦 (教授)
栗原 拓史 (教授)
千熊 正彦 (教授)
森本 武司 (事務局長
施設課長)
高橋 正好 (教務課長)

建設委員会

田中 千秋 (教授)
沼田 敦 (教授)
望月伸三郎 (教授)
石田 寿昌 (教授)
掛見 正郎 (教授)

◎久保田晴寿 (学長)
森 逸男 (教授)
池田 潔 (教授)
稲森 善彦 (教授)
草野源次郎 (教授)
河野 光次 (事務局長)

教員研究業績一覽 (1992年)

(1992. 1. 1 ~ 12. 31)

1. 研究学術論文

著者	題目	掲載誌
石田寿昌, 祢 宜章, 尹 康子, 井上正敏	Structure of N-(indol-3-ylethyl)-4-hydroxyphenylacetamide	Acta Crystallogr., C48 , 193 (1992)
樽井麻里子, 古村春美, 加福やよい, 石田寿昌, 井上正敏	Mutual assistance of hydrogen-bond pairing and aromatic stacking interactions for molecular recognition: Spectroscopic study on the interaction of guanine base with cytosine and tryptophan molecules	Biochem. Biophys. Res. Commun., 183 , 77 (1992)
友尾幸司, 大西宏文, 土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏, 池田 潔, 他	Structure of acidic phospholipase A ₂ for venom of <i>Aegidrotodon halys bromhoffii</i> at 2.8 Å resolution	Biochem. Biophys. Res. Commun., 184 , 137 (1992)
尹康子, 土井光暢, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Conformational feature of neuroactive domoic acid: X-ray structural comparison with isodomoic acid A and α -kainic acid	Biochem. Biophys. Res. Commun., 187 , 325 (1992)
友尾幸司, 大石宏文, 土井光暢, 石田寿昌, 井上正敏, 池田 潔	Interaction mode of n-dodecylphosphorylcholine, a substrate analogue, with bovine pancreas phospholipase A ₂ as determined by x-ray crystal analysis	Biochem. Biophys. Res. Commun., 187 , 821 (1992)
金 文執, 山本大助, 松本慶太, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Crystal structure of papain-E-64-c complex: Binding diversity of E64-c to papain S ₂ and S ₃ subsites	Biochem. J., 287 , 797 (1992)
山元 淳, 友尾幸司, 土井光暢, 大石宏文, 井上正敏, 石田寿昌, 山本大助, 他	Crystal structure of papain-succinyl-Gln-Val-Val-Ala-Ala-p-nitroanilide complex at 1.7 Å resolution: noncovalent binding mode of a common sequence of endogenous thiol protease inhibitors	Biochemistry, 31 , 11305 (1992)
石田寿昌, 尹 康子, 土井光暢, 井上正敏, 他	Molecular conformation of ascidiacyclamide, a cytotoxic cyclic peptide from <i>Ascidian</i> : X-ray analyses of its free form and solvate crystals	Biopolymers, 32 , 131 (1992)
山元 淳, 井上正敏, 石田寿昌, 他	Molecular design of potent inhibitor specific for cathepsin B based on the tertiary structure prediction	Chem. Pharm. Bull., 40 , 299 (1992)
大石宏文, 他	Photocyclization of enamides. XXXVI. Alkaloid synthesis using furopyridone as a synthon: Synthesis of key intermediates for the synthesis of eburnamine-vincamine alkaloids	Chem. Pharm. Bull., 40 , 602 (1992)
石田寿昌, 尹 康子, 井上正敏, 他	Effect of the D-Phe ² residue on molecular conformation of an endogenous neuropeptide achatin-I: Comparison of X-ray crystal structures of achatin-I (H-Gly-D-Phe-Asp-OH) and achatin-II (H-Gly-Phe-Ala-Asp-OH)	FEBS Lett., 307 , 253 (1992)

著 者	題 目	掲 載 誌
石田寿昌, 尹 康子, 土井光錫, 井上正敏, 他	Crystal structure and molecular conformation of achatin-I (H-Gly-D-Phe-Ala-Asp-OH), and endogenous neuropeptide containing a D-amino acid residue	Int. J. Peptide Protein Res., 39 , 258 (1992)
石田寿昌, 尹 康子, 藤川昭彦, 浦田秀仁, 井上正敏, 他	Conformational feature of aureobasidin E, a new type of potent antifungal antibiotic	J. Chem. Soc. Chem. Commun., 1231 (1992)
井上正敏, 尹 康子, 石田寿昌	Calcium binding to phospholipid: Structural study of calcium glycerophosphate	J. Lipid Res., 33 , 985 (1992)
山元 淳, 鍛治敏夫, 友尾幸司, 石田寿昌, 井上正敏, 他	Crystallization and preliminary X-ray study of the cathepsin B complexed with CA074, a selective inhibitor	J. Mol. Biol., 227 , 942 (1992)
石田寿昌, 他	Potent inhibitors of histamine release, two novel triterpenoids from the Okinawan marine sponge <i>Penares incrustans</i>	J. Nat., Prod., 55 , 1682 (1992)
尹 康子, 石田寿昌, 他	Conformational difference between diastereomers of Dnp-pNA derivatives of aib-containing tetrapeptides	Peptide Chemistry, 1991, 71 (1992)
大石宏文, 他	Absolute structure of kiwiionoside as a precursor of loliolide and actinidiolide, from <i>Actinidia chinensis</i>	Planta Med., 58 , 112 (1992)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 木村珠美代	Improved spectrophotometric of dysprodim (III) with 4-(2-pyridylazo)resorcinol in the presence of Triton X 305-hexadecylpyridinium chloride	Anal. Lett., 25 1345 (1992)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 田中加代	Spectrophotometric determination of gadolinium (III) with O-hydroxy-hydroquinonephthalein in mixed micelles of N-hexadecylpyridinium chloride and Brij 35	Anal. Lett., 25 , 2377 (1992)
藤田芳一, 森 逸男, 豊田美奈子	Spectrophotometric of protein with chromazuril B-beryllium(II) complex by manual and flow-injection methods	Anal. Sci., 8 , 313 (1992)
藤田芳一, 森 逸男, 豊田美奈子	Determination of basic-proteins based on color reaction with the 3, 4, 5, 6-tetrachloro-2-carboxyphenylfluorone-manganese(II) complex	Anal. Sci., 8 , 693 (1992)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 久保幸子	Alternative spectrophotometric determination of niobium and tantalum with O-hydroxyhydroquinonephthalein in cationic surfactant micellar media	Fresenius J. Anal. Chem., 342 , 80 (1992)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 濱田美代子, 赤木昌夫	Simple fluorophotometric determination of cobalt (II) with p-hydroxy-2-anilinopyridine and hydrogen peroxide	Fresenius J. Anal. Chem., 343 , 902 (1992)
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 竹内洋子	Highly sensitive spectrophotometric determination of osmium (VIII) with pyrogallolphthalein and hydrogen peroxide in the presence Brij 35	Fresenius J. Anal. Chem., 344 , 292 (1992)

著 者	題 目	掲 載 誌
森 逸男, 藤田芳一, 豊田美奈子, 長谷川由季	Improved spectrophotometric of osium(VIII) with 4-(2-pyridylazo) resorcinol in mixed surfactants	Talanta, 39 535 (1992)
千熊正彦, 他	微量セレン (IV) を選択的に吸着する樹脂を用いるセレン(IV)およびセレン(VI)の分別定量	Biomed. Res. Trace Elements, 3 205 (1992)
千熊正彦, 他	Flow analysis for determination of hydrogen peroxide in environmental water by the use of biomimetic functional resin.	Chem. Protect. Environ., 1 , 217 (1992)
宮原直子, 大桃善朗, 田中千秋, 他	Synthesis and aldose reductase inhibitory activities of benzyl 2-oxazolecarbamate analogues.	Chem. Pharm. Bull., 40 , 245 (1992)
大桃善朗, 他	Synthesis of (S)-N- [methyl- ¹⁴ C] nicotine and its regional distribution in the mouse brain: a potential tracer for visualization of brain nicotinic receptors by positron emission tomography.	Chem. Pharm. Bull., 40 , 734 (1992)
大桃善朗, 村上勝彦, 杉本 淳, 宮原直子, 田中千秋, 他	Synthesis and evaluation of iodinated benzamide derivatives as selective and reversible monoamine oxidase B inhibitors.	Chem. Pharm. Bull., 40 , 1789 (1992)
大桃善朗, 田中千秋, 他	Development of a novel radioiodinated glucose derivative with interaction to hexokinase.	J. Labelled Compd. Radiopharm., 31 , 317 (1992)
大桃善朗, 他	New conformationally restricted ^{99m} TcN ₂ S ₂ complexes as myocardial perfusion imaging agents.	J. Med. Chem., 35 , 157 (1992)
木村捷次郎, 泰松明子	剤形の異なる医薬品の放射線分解とG値	Radioisotopes, 41 . 71 (1992)
沼田 敦, 高橋千佳, 他	Juvenile hormone I is the principal juvenile hormone in a hemipteran insect, Riptortus clavatus	Experientia, 48 , 607 (1992)
沼田 敦, 寒原昭一, 高橋千佳, 藤木綾子, 米田倫子, 宇佐美吉英	A cytotoxic principle of the brown alga <i>Sargassum tortile</i> and structures of chromens	Phytochemistry, 31 , 1209 (1992)
沼田 敦, 河合健蔵, 高橋千佳, 宮本多美江	Occurrence of epijuvabione-type sesquiterpenoids in <i>Abies sachalinensis</i>	Phytochemistry, 31 , 3773 (1992)
宇佐美吉英, 他	2,2-Dimethyl-1, 3-oxathiane 3, 3-dioxide: A γ -hydroxy-propyl anion equivalent	Synthesis, 852 (1992)
沼田 敦, 高橋千佳, 松下智哉, 宮本多美江, 河合健蔵, 宇佐美吉英, 松村瑛子, 井上正敏, 大石宏文, 他	Fumiquinazolines, novel metabolites of a fungus isolated from saltfish	Tetrahedron Lett., 33 , 1621 (1992)
米田 竜司, 稲垣規子, 春沢信哉, 栗原拓史	A new synthesis of allenic nitriles from ynones via cyano phosphates	Chem. Pharm. Bull., 40 , 21 (1992)
春沢信哉, 大石宏文, 大崎浩孝, 富井佐知子, 米田竜司, 栗原拓史	[3,3] Sigmatropic ring expansion of cyclic thionocarbonates. VI. Regioselective Wohl-Ziegler Bromination of 10-Membered thiolcarbonates	Chem. Pharm. Bull., 40 , 2185 (1992)

著 者	題 目	掲 載 誌
春沢信哉, 富井佐知子, 武久千晶, 大石宏文, 米田竜司, 栗原拓史	[3,3] Sigmatropic ring expansion of cyclic thionocarbonates. VII. On the formation of 8-membered thionocarbonates as the intermediates	Chem. Pharm. Bull., 40 , 2279 (1992)
春沢信哉, 大崎浩孝, 藤井晴美, 米田竜司, 栗原拓史	[3,3] Sigmatropic ring expansion of cyclic thionocarbonates. 8. Highly stereoselective synthesis of(Z)-or(E)-double bonds by controlling chairlike-boatlike transition states in the [3,3] sigmatropic rearrangement of the 8-membered thionocarbonates	Tetrahedron, 48 , 9433 (1992)
春沢信哉, 大崎浩孝, 竹村茂隆, 米田竜司, 栗原拓史	[3,3] Sigmatropic ring expansion of cyclic thionocarbonates. 5. Stereoselective synthesis of the yellow scale pheromone	Tetrahedron Lett., 33 , 2543 (1992)
浦田秀仁, 田村公宏, 浦田雅之, 赤木昌夫	Effects of 1, 3-chelation induced by cis-diammine dichloroplatinum(II) on the stability of DNA duplexes	Fed. Eur. Biochem. Soc., 311 , 263 (1992)
浦田秀仁, 小倉絵美子, 篠原圭子, 上田義明, 赤木昌夫	Synthesis and properties of mirror-image DNA	Nucleic Acids Res., 20 , 3325 (1992)
岡 雅仁, 太田長世, 三野芳紀, 他	Studies on the conformational aspects of inulin oligomers	Chem. Pharm. Bull., 40 , 1203 (1992)
草野源次郎, 他	5-Lipoxygenase inhibitors isolated from the mushroom <i>Boletopsis leucomelas</i> (Pers.) Fayod	Chem. Pharm. Bull., 40 , 3194 (1992)
草野源次郎, 関本千香, 阿部真弓, 尹 康子, 大石宏文, 石田寿昌, 他	The structures of two isomeric N - formates from 3-O-acetylsolasodine	Heterocycles, 34 , 1957 (1992)
草野源次郎, 他	Neocarzilins A and B, novel polyenones from <i>Streptomyces carzionostaticus</i>	Tetrahedron Lett., 33 , 7547 (1992)
馬場きみ江, 木戸 正, 小澤 貢, 他	Inhibition of gastric H ⁺ , K ⁺ -ATPase and acid secretion by cassigarol A, A polyphenol from <i>Cassia garrettiana</i>	Biochem. Pharmacol. 44 , 33 (1992)
馬場きみ江, 木戸 正, 小澤 貢, 他	Effect of stilbene derivatives on gastric H ⁺ , K ⁺ -ATPase	Biochem. Pharmacol. 44 , 1947 (1992)
馬場きみ江, 小澤 貢, 他	Daphnodorins inhibit gastric H ⁺ , K ⁺ -ATPase and acid secretion	Pharm. Pharmacol. Lett., 2 , 108 (1992)
馬場きみ江, 谷口雅彦, 小澤 貢	A spirobiflavonoid genkwanol B from <i>Daphne genkwa</i>	Phytochemistry, 31 , 975 (1992)
馬場きみ江, 川西 博, 谷口雅彦, 小澤 貢	Chromones from <i>Cnidium monnieri</i>	Phytochemistry, 31 , 1367 (1992)
馬場きみ江, 木戸 正, 谷口雅彦, 小澤 貢	Two stilbenoids from <i>Cassia garrettiana</i>	Phytochemistry, 31 , 3215 (1992)
小山純一, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Purification and amino acid sequence of a nerve growth factor from the venom of <i>Vipera russelli russelli</i>	Biochim. Biophys. Acta, 1160 , 287 (1992)

著 者	題 目	掲 載 誌
藤井 忍, 西村裕子, 池田 潔, 他	Phospholipase A ₂ inhibition by manoalide: Development of simple analogues and necessary functional groups for inhibition	Bioorg. Medicinal Chem. Lett., 2 , 1263 (1992)
西村裕子, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Toward elucidation of the inhibition mechanism of phospholipase A ₂ by manoalide: Selectively modified amino acid residues by manoalide analogues	Bioorg. Medicinal Chem. Lett., 2 , 1267 (1992)
西村裕子, 井上晴嗣, 池田 潔, 他	Kinetics of the hydrolysis of micellar substrates catalyzed by snake venom phospholipases A ₂	J. Biochem., 111 , 210 (1992)
佐久間覚, 藤本陽子, 奥村みゆき, 西田裕子, 山本郁男, 藤田 直	The effects of arachidonic acid and its CoA ester on the catabolism of prostaglandin E ₂ in rabbit kidney cortex	Biochem. Int. 27 , 291 (1992)
佐久間覚, 藤本陽子, 西田裕子, 隅谷俊紀, 山本郁男, 藤田 直	Inhibition of prostaglandin Δ 13 reductase activity in rabbit kidney cortex by glutathione disulfide	Prostaglandins, 43 , 435 (1992)
藤本陽子, 高井真司, 松野清隆, 隅谷俊紀, 西田裕子, 佐久間覚, 藤田 直	Effect of <i>tert</i> -butyl hydroperoxide on cyclooxygenase and lipoxygenase metabolism of arachidonic acid in rabbit platelets	Prostaglandins Leukotrienes and Essential Fatty Acids, 47 , 259 (1992)
藤本陽子, 中島 正, 村上裕子, 高見公子, 西田裕子, 佐久間覚, 藤田 直	Effects of fatty acyl-coenzyme A esters on prostaglandin synthesis in rabbit kidney medulla microsomes	Prostaglandins Leukotrienes and Essential Fatty Acids, 47 , 265 (1992)
藤田 直, 佐久間覚, 隅谷俊紀, 西田裕子, 藤本陽子, 馬場きみ江, 小澤 貢	The effects of xanthoangelol E on arachidonic acid metabolism in the gastric antral mucosa and platelet of the rabbit	Res. Commun. Chem. Pathol. Pharmacol., 77 , 227 (1992)
森本一洋, 岩倉裕士, 中谷恵美, 東島秀樹	Effects of proteolytic enzyme inhibitors as absorption enhancers on the transdermal iontophoretic delivery of calcitonin in rats	J. Pharm. Pharmacol., 44 , 216 (1992)
森本一洋, 岩倉裕士, 宮崎 誠, 中谷恵美	Effects of proteolytic enzyme inhibitors of enhancement of transdermal iontophoretic delivery of vasopressin and an analogue in rats.	Int. J. Pharm., 81 , 119 (1992)
掛見正郎, 他	Effect of l-mentol on the permeation of indomethacin, mannitol and cortisone through excised hairless mouse skin	Chem. Pharm. Bull., 40 , 3097 (1992)
松村靖夫, 塚原八重子, 國延和子, 高岡昌徳, 森本史郎	Phosphoramidon-sensitive endothelin-converting enzyme in vascular endothelial cells converts big endothelin-3 to their mature form.	FEBS Lett., 305 , 86 (1992)
鈴木靖規, 松村靖夫, 梅川俊義, 林 一孝, 高岡昌徳, 森本史郎	Effects of endothelin-1 on antidiuresis and norepinephrine overflow induced by stimulation of renal nerves in anesthetized dogs.	J. Cardiovasc. Pharmacol., 19 , 905 (1992)
鈴木靖規, 松村靖夫, 江木康陽, 森本史郎	Effects of losartan, a nonpeptide angiotensin II receptor antagonist, on norepinephrine overflow and antidiuresis induced by stimulation of renal nerves in anesthetized dogs.	J. Pharmacol. Exp. Ther., 263 , 956 (1992)

著 者	題 目	掲 載 誌
松村靖夫, 梅川俊義, 河村 仁, 高岡昌徳, 森本史郎, 他	A simple method for measurement of phosphoramidon-sensitive endothelin converting enzyme activity.	Life Sci., 51 , 1603 (1992)
亀山悦子, 玄番宗一	Protective effect of the iron chelator deferoxamine on cisplatin-induced lipid peroxidation in rat kidney cortical slices	International Congress Series-Oxygen Radicals, 998, 723 (1992)
朝倉賢治, 池田英恵, 玄番宗一	In vitro oxygenation injury to slices prepared from ischemic kidney in rats	Jpn. J. Pharmacol., 60 , 149 (1992)
玄番宗一, 山口達也, 寒原勝巳, 鈴木淳乃, 河合悦子	Increases in urinary enzyme excretion in rats depleted of glutathione inhibited by scavenger of oxygen free radicals	J. Pharmacobio-Dyn., 15 , 513 (1992)
天野拓之, 保坂康弘	Morphological estimation of total number of influenza A type virion spikes	J. Electron Microscopy, 41 , 104 (1992)
黒田和道, 他	Secretion of fowl plague virus haemagglutinin from insect cells requires elimination of both hydrophobic domains.	J. General Virology, 73 , 839 (1992)
天野拓之, 上本 裕, 黒田和道, 保坂康弘	Immunolectron microscopy of influenza A virus neuraminidase glycoprotein topography.	J. General Virology, 73 , 1969 (1992)
黒田和道, 他	Structure and assembly of hemagglutinin mutants of fowl plague virus with impaired surface transport	J. Virology, 66 , 1495 (1992)
辻坊 裕, 宮本勝城, 玖田 孝, 坂本隆志, 稲森善彦, 他	Purification, properties, and partial amino acid sequences of thermostable xylanases from <i>Streptomyces thermoviolaceus</i>	Appl. Environ. Microbiol., 58 , 371 (1992)
辻坊 裕, 吉田征生, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Purification and properties of two types of chitinases produced by an alkalophilic actinomycete	Biosci. Biotech. Biochem., 56 , 1304 (1992)
辻坊 裕, 吉田征生, 宮本勝城, 稲森善彦, 他	Purification, properties, and partial amino acid sequence of chitinase from a marine <i>Alteromonas</i> sp. strain O-7	Can. J. Microbiol., 38 , 891 (1992)
稲 森善彦, 室 親明, 大石宏文, 宮本勝城, 辻坊 裕, 馬場きみ江	Relationship between structure and phyto-growth-inhibitory activity of 2,5-dihydroxy-1,4-dithiane-related compounds	Chem. Pharm. Bull., 40 , 536 (1992)
辻坊 裕, 稲森善彦, 他	Effects of 3,3'-dihydroxy- α,β -diethylstilbene and 3, 3', 4, 5'-tetrahydroxystilbene on microtubule assembly in vitro, aneuploidy induction, and cellular microtubule and actin networks	Chem. Pharm. Bull., 40 , 2115 (1992)
稲森善彦, 室 親明, 田中亮子, 足立充司, 宮本勝城, 辻坊 裕	Phyto-growth-inhibitory activity of sulphur-containing compounds. I. Inhibitory activities of thiazolidine derivatives on plant growth	Chem. Pharm. Bull., 40 , 2854 (1992)
土井 勝, 他	Neutrino emitting modes of double beta decay	Progress of Theoretical Physics, 87 , 1207 (1992)

著 者	題 目	掲 載 誌
松永春洋, 田中麗子, 他	Tannins and related polyphenols of euphorbiaceous plants. IX. Hydrolyzable tannins with ¹⁴ C ₆ glucose core from <i>Phyllanthus flexuosus</i> Muell. Arg.	Chem. Pharm. Bull. 40 , 53 (1992)
田中麗子, 宇佐美吉英, 尹 康子, 石田寿昌, 松永春洋, 他	The structure of spiroveitchionolide, an unusual lanostane-type triterpene lactone from <i>Abies veitchii</i>	J. Chem. Soc. Chem. Commun., 1992, 1351
田中麗子, 松永春洋	Saturated hopane and gammacerane triterpene-diols from the stem bark of <i>Abies veitchii</i>	Phytochemistry, 31 , 3535 (1992)
松村瑛子, 沼田 敦, 河合健蔵, 大石宏文, 他	A novel laccase inhibitor, N-hydroxyglycine, produced by <i>Penicillium citrinum</i> YH-31	Biosci. Biotech. Biochem., 56 , 987 (1992)
坂口 実, 他	The biological fate of sodium prasterone sulfate after vaginal administration. I. Absorption and excretion in rats	J. Pharmacobio-Dyn., 15 , 67 (1992)
坂口 実, 他	The biological fate of sodium prasterone sulfate after vaginal administration II: Distribution after single and multiple administration to pregnant rats	薬物動態, 7 , 87 (1992)
松島哲久	生命倫理の両義性と環境倫理 — 生の根源性についての問いかけ —	医学哲学医学倫理, 第10号, 46頁 (1992)
楠瀬健昭	続ロレンスの小説作法管見	とい, XII, 10 (1992)
楠瀬健昭	A closer look at the creation of lady chatterley's lover	ばいでいあ, 16 , 61 (1992)

2. シンポジウム

著 者	題 目	掲 載 誌
石田寿昌, 他	A conformational study of achatin- I, an endogenous neuropeptide containing a D-amino acid residue	Twelfth American Peptide Symposium, Abstract p65 (1992)
木村捷二郎, 他	Observation of tritium by continuous sampling of rain and water vapor in Osaka	Proceedings of eighth international congress of the international radiation protection association "worldwide achievement in public and occupational health protection against radiation", 2 , 1290 (1992)
浦田秀仁, 上田義明, 宇佐美吉英, 赤木昌夫	Application of L-DNA to the study of the specific DNA recognition mechanism of bleomycin	Nineteenth Symposium on Nucleic Acids Chemistry Abstract p. 3 (1992)
松村靖夫, 高岡昌徳, 森本史郎	Conversion of big endothelin-1 to endothelin-1 and its pathophysiological significance.	Jpn. J. Pharmacol., 58 (Suppl. I), 51 (1992)

著者	題目	掲載誌
森本一洋, 東島秀樹, 掛見正郎, 他	高純度不飽和脂肪酸によるインドメタシンの経皮吸 収促進効果	Ther. Res., 13, 3146 (1992)
楊 秀珍, 保坂康弘	Double staining immunoelectron microscopy of interactions of influenza virus and human peripheral blood T lymphocytes.	Electron Microscopy 3, EUREM 92, 561, Spain (1992)

3. 紀要・総説・解説

著者	題目	書名または掲載誌 (出版社)
石田寿昌	核酸塩基識別能を有するオリゴペプチドの分子構築	薬学研究所の進歩 研究成果報告 集, 8, 55 (1992)
藤田芳一	蛍光性カリックスアレーン	ぶんせき, 1992, . 559.
大桃善朗	ポジトロン放射性医薬品による心筋神経系のマッピ ングと機能評価	ファルマシア, 28, 70 (1992)
馬場きみ江, 他	アシタバは持病によく効く食べるクスリ	わたしの健康, 6, 56 (1992)
藤本陽子, 佐久間覚, 藤田 直	Effect of <i>tert</i> -butyl hydroperoxide on cy- clooxygenase and lipoxygenase metabolism of arachidonic acid in platelets	Oxygen Radicals, 143 (1992)
藤田 直, 藤本陽子	活性酸素, 過酸化脂質の生成と消去機構	日薬理誌, 99, 381 (1992)
森本一洋	生体表面への薬物投与 (経皮・経粘膜吸収DDS)	表面, 30, 177 (1992)
松村靖夫, 森本史郎	Calium inhibition of renin secretion.	Calcium Inhibition, Edited by K. Kohama, Japan Sci. Press and CRC Press, 7 (1992)
松村靖夫, 高岡昌徳, 森本史郎	エンドセリン変換酵素——ホスホラミドン感受性膜 結合型金属プロテアーゼを中心に——	血管と内皮 (特集エンドセリ ン), 2, 32 (1992)
森本史郎, 松村靖夫	ループ利尿薬	日本臨床, 50, 674 (1992増刊 号)
保坂康弘	ウイルス抗原の処理と認識	蛋白質核酸酵素10月号増刊 “生 命科学を推進する分子ウイルス 学”, 533 (1992)
加藤義春	Politische Vereine und Parteien in der Revolu- tion von 1848/49	ばいであ, 16, 85 (1992)
阿部 功	「環境」への問い、「現代」への問い	企業市民, 3, 31 (1992)
阿部 功	あそびの復権と小劇場—参加型の関西文化を	産経新聞, H4.4.8 (夕刊)
濱中久美子 (訳) ゲルトルト・フォン・ル・フォル(著)	最後の会見 (I)	ばいであ, 16, 91 (1992)

著 者	題 目	書名または掲載誌 (出版社)
松島哲久	危機に立つ現代医療と倫理 —医療技術の人間化的機能の可能性について	ばいでいあ, 16, 3 (1992)
河鐸一彦, 大石宏文, 望月伸三郎	本学新入生の体力の年次推移 1974年から1991年までの体力診断テストが示唆する もの	ばいでいあ, 16, 4 5 (1992)
〔追捕〕 松永春洋, 他	発癌プロモーター抑制剤	公開特許公報(A), 平3-271220, 123 (1991)
森下利明	「人間」の死についての一考察	ばいでいあ, 15, 29 (1991)
濱中久美子(訳) ゲルトルト・フォン・ル・フォル(著)	エフタの娘(II)	ばいでいあ, 15, 175 (1991)

4. 著書

著 者	書 名	出 版 社
森 逸男, 千熊正彦, 他	わかりやすい分析化学入門(第2版) 第6章(森 逸男) 第9章(千熊正彦)	広川書店 (1992)
栗原拓史, 他	医薬品化学	広川書店 (1992)
赤木昌夫, 他	医薬化学 生物学への橋かけ	広川書店 (1992)
草野源次郎, 他	毒性試験講座16 食品, 食品添加物「植物毒」	地人書館 (1992)
草野源次郎, 他	宮城のきのこ	河北新報社 (1992)
小澤 貢, 他	薬用植物学 改訂第4版	南江堂 (1992)
小澤 貢, 他	漢方製剤の知識 (IV)	薬事新報社 (1992)
掛見正郎, 森本一洋, 他	よくわかる生物薬剤学 第5章5・1, 第6章(掛見正郎) 第2章2・4, 第5章5・2 (森本一洋)	広川書店 (1992)
掛見正郎, 森本一洋, 他	例題+ポイント 薬剤学	広川書店 (1992)
玄番宗一, 他	腎臓学 Key Notes	東京医学社 (1992)
阿部 功, 他	世界都市・関西の構図	白地社 (1992)



親和会だより

三朝温泉と鳥取砂丘の旅

本年3月6日(土)に親和会恒例の親睦旅行が執り行われました。会員45名の参加を得、午後1時バスにて本学を出発し、一路三朝温泉へ向かいました。道中所々に残雪が見られましたが、幸い好天に恵まれ予定どおりに無事、宿である三朝館に到着しました。

会員の皆様は、旅の疲れを温泉で癒したあと、宴会場である大広間で記念撮影後、まず曾根先生にご挨拶を賜り、続いて森先生に乾杯の音頭をとって頂き、宴会が始まりました。常日頃あまり話をする機会がない会員同士が普段の格式を忘れ、和やかな雰囲気の中

で、お酒をくみかわし、ご馳走に舌鼓を打ちながらビンゴゲームならびにカラオケ大会と時の経つのを忘れ、存分に楽しみました。

翌朝8時に朝食をとりましたが、皆様は昨夜の疲れのためか非常に静かな雰囲気の中、食事を進めておられました。午前9時、宿に別れを告げ、次の目的地であります鳥取砂丘へ向かいました。昨日の好天とは打って変わり、生憎の雨模様で見学する状態ではなかったのですが、砂丘から荒涼とした日本海を見られた方もいらしたとか耳にしております。鳥取砂丘のレストランで昼食をとった後、バスに乗り込み、夕刻に無事本学に到着しました。

最後に幹事の数々の不行届にも拘わらず、旅行を無事終えられたのも、偏に会員の皆様方のご協力の賜と幹事一同心よりお礼申し上げます。

(記・助教授 辻坊 裕)

葦

編集・発行

大阪薬科大学広報委員会

〒580 大阪府松原市河合2-10-15

TEL 0723(32)1015(代表)

FAX 0723(32)9929